広島大学大学院文学研究科論集
第61巻 特 輯 号 2

日伊対照言語学研究

古　浦　敏　生

2001年12月

日 伊 対 照 言 語 学 研 究

古 浦　敏 生

（キーワード：日伊対照言語学、色彩語、文末表現、擬音語、否定接頭辞）

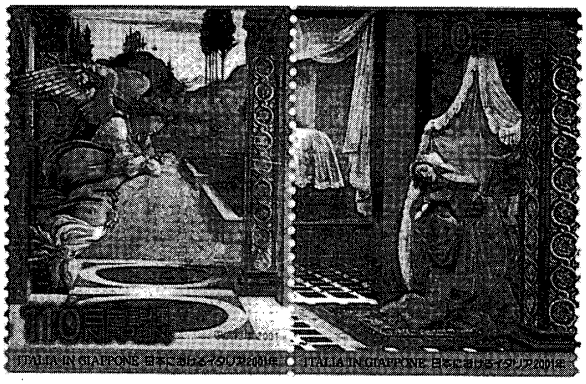
目次

はしがき……1
序章　日伊対照言語学研究の歴史……2
　第１節　対照言語学とその研究方法……2
　第２節　日伊対照言語学 ……4
第１章　色彩語彙に関する考察……6
　第１節　はじめに……6
　第２節　先行研究……7
　第３節　イタリア語における資料蒐集の方法と資料の略号……8
　第４節　イタリア語における色彩語彙資料……9
　第５節　日本語における資料蒐集の方法と資料の略号……22
　第６節　日本語における色彩語彙資料……22
　第７節　イタリア語における色彩語彙資料の分析……31
　第８節　日本語における色彩語彙資料の分析……34
　第９節　まとめ……36
第２章　文末表現に関する考察……40
　第１節　はじめに……40
　第２節　イタリア語の付加疑問……40
　第３節　付加疑問の用例……41
　第４節　肯定の付加疑問 vero?「ほんとうか？」に対応する京都方言の文末部……43
　第５節　否定の付加疑問 no?「そうではないか？」に対応する京都方言の文末部……43
　第６節　付加疑問と否定詞との関係……44
　第７節　まとめ……45
第３章　擬音語に関する考察……47
　第１節　はじめに……47
　第２節　吉本ばなな『キッチン』原文に現れる擬音語とそのイタリア語訳……48
　第３節　データの分析（その１）……51
　第４節　夏目漱石『草枕』に現れる擬音語とそのイタリア語訳……52
　第５節　データの分析（その２）……55
　第６節　まとめ……55
第４章　否定接頭辞に関する考察……58
　第１節　はじめに……58

第２節　先行研究……58
第３節　用例一覧……60
第４節　用例の分析……65
第５節　まとめ……67
注……69
参考文献……71
あとがき……72
伊文レジュメ……73

はしがき

近年、イタリア語を学習する日本人も、また、日本語を学習するイタリア人も増加の一途を辿っている。日本文学作品のイタリア語訳の出版も盛んである。イタリアでは1995年から1996年にかけて、日本を総合的に紹介する事業「イタリアにおける日本 95/96」が行われ、好評を博した。これを受けて、平成１３年は「日本におけるイタリア２００１年 (Italia in Giappone 2001)」ということで、日本各地で100を越す様々なイベントが開催され、ボッティチェッリの名画「ヴィーナスの誕生」・「受胎告知」を図案化した記念切手も発行された。



このように友好的な両国の文化交流に鑑みて、イタリア語研究者も、イタリア語プロパーの研究だけでなく、日本語とイタリア語を比較・対照することによって、両言語の特色をクローズアップさせる努力も必要となった。こういった研究分野が「日伊対照言語学」である。後述のように、この分野の従来の取り組みはまだ日が浅く、語るほどの歴史はない。

筆者は日伊対照言語学研究としてこれまでに、色彩語と文末表現に関する論文を発表した。前者に関しては、まず伊文でイタリアの雑誌 *Studi italiani di linguistica teorica e applicata* 『イタリア理論・応用言語学研究』1992,XXI,Padova,pp.199-218 に発表し、その後、和文でも発表したが、若干データの追加・修正をほどこして、今回改稿しておこうと思う。次に、後者に関しては、文末表現のうち、付加疑問を中心に、藤原与一編『言語類型学と文末詞』1993、三弥井書店 pp.21-31 の中で発表した。また、このたび新たに、擬音語と否定接頭辞に関する論考を作成し、一本にまとめたのが本書である。

対照言語学なるものの全体を統括する枠組みがまだ確立されていない今日、わずか４種のテーマのみを扱った本書は、十分なものとは言えないが、今後の日伊対照言語学の進展の足掛かりになることを期待している。

序章　日伊対照言語学研究の歴史

第1節　対照言語学とその研究方法

対照言語学（contrastive linguistics, kontrastive Linguistik, linguistique contrastive）に関する一般的記述としては、田中春美ほか編『現代言語学辞典』成美堂(1988)によれば、以下のようである。

“二つの言語の部分的体系（音韻・形態・統語・語彙・文字など）の記述を比較・対照し、両者の間の異同を明らかにする研究分野。その比較の方法はしばしば対照分析(contrastive analysis)と呼ばれる。対照言語学は、歴史的・系統的関係の有無にかかわりなく、原則として二つの言語を共時的に比較するという点において、同一の祖語(proto-language)から生じた同系の複数言語を通時的に扱う比較言語学(comparative linguistics) とは、根本的に異なるものである。対照言語学は、第二言語 (second language)／外国語の教授・学習において、学習者の母語 (native language)と学習目標の第二言語／外国語の間の構造上の差異が学習に干渉(interference)を引き起こすので、両言語の対照を通してそのような学習の困難点を予測し、その方面に集中的な訓練を施すことによって、学習効果を高めることを狙いとしていた。日英両言語の比較のように、英語を対象とする自国語との対照研究は、世界各国で根強い人気があり、少しずつ地道な研究が行なわれている。”

また、亀井孝・河野六郎・千野栄一共編『言語学大辞典』第6巻、三省堂(1995)の記述によれば、“比較言語学で比較対比されるのは、語根を中心とする語彙における音韻や形態素であるのに、対照言語学が好んで扱うレベルは語形成をも含む文法で、音韻や語彙体系を扱うことは少ない。対照言語学で取り扱われる二つの言語のうち、その一つは研究者の母語であるのが普通で、目標言語での差異が母語である基本の言語でどう対比するかを追究するのが通常であるが、その逆もありうる。外国語学習の基礎ともなる言語の対比による研究を対照言語学として確立しようとする動きは今世紀の中頃から目につくようになってはいるが、具体的な二言語間の対比が、一つ一つの異なった面の違いや、一致或いは類似を見いだすことはあっても、それらすべての結果を統合するような枠組みはまだ出来ていない” とされている。

さて、対照言語学の具体的な方法であるが、たとえば、次のような例が考えられよう。すなわち、同じ日本文学作品が多くの外国語に翻訳されている場合、日本語原文の同じ個所がそれぞれどのように翻訳されているかを比較・対照する方法である。三島由紀夫『金閣寺』第3章 p.74 、新潮文庫、昭和 46 年を取り上げてみよう。(例1)は日本語原文、(例2)は英語訳、(例3)はドイツ語訳、(例4)はフランス語訳、(例5)はイタリア語訳、(例6)はスペイン語訳である。そして、日本語原文の「真赤な炎いろの」に該当する個所にはそれぞれ下線がほどこしてある。この際、それぞれの翻訳は、もちろん、日本語からの直訳を採用すべきであって、(たとえば英語訳

を介したような）重訳であってはならない。

(例１)女は外人兵相手の娼婦だと一目でわかる真赤な炎いろの外套を着、足の爪も手の爪も、同じ炎いろに染めていた

(例２)I could tell at a glance that the girl was a prostitute who catered to foreign soldiers : for she wore a flaming-red overcoat and her fingernails and toenails were painted the same flaming color.

(*The Temple of the Golden Pavilion*, translated by Ivan Morris,1959,p.74,Tuttle Company)

(例３)Die Frau trug einen flammendroten Mantel, und Zehen und Fingernägel waren ebenso flammenrot gefärbt, woran man mit einem Blick die Prostituierte erkannte, die sich mit fremden Soldaten einließ.

(*Der Tempelbrand*,aus dem Japanischen übertragen von Walter Donat,1988,S.82, Goldmann Verlag)

(例４)Un simple coup d'œil suffit pour me faire reconnaître une de ces prostituées qui courent la soldatesque étrangère : manteau rouge vif, ongles rouge vif, aux pieds comme aux mains.

(*Le Pavillion d'Or*, traduit du japonais et préfacé par Marc Mécréant, 1961,p.126,Gallimard)

(例５)Capii subito che si trattava d'una di quelle prostitute che praticavano i soldati stranieri : aveva un cappotto rosso fiamma e le unghie delle mani e dei piedi laccate nello stesso colore.

(*Il Padiglione d'Oro*, traduzione dal giapponese di Mario Teti,1962,p.75,Feltrinelli)

(例６)Me bastó una miranda para comprobar que se trataba de una de esas prostitutas que se ganan la vida con la soldadesca extranjera : abrigo color rojo vivo, y uñas rojo vivo, tanto en las manos como en los pies.

(*El Pabellón de Oro*, traducción de Juan Marsé ,1963,p.74,Seix Barral)

日本語原文では、「真赤な」という形容詞に「炎」という名詞が後続する句構造となっている。しかし、(例２)の英語訳では、flaming という形容詞に red という形容詞が句構造となっている。また、日本語原文に登場する「炎いろ」という色彩表現あるいはそれに関連した表現が存在するか否かという観点からすれば、(例３)のドイツ語には flammend-という構成要素にそれが見られるが、(例４)のフランス語にはそれが見られない。さらに、「炎」関連の語彙が存在する場合、それは「赤い」という色彩語の前に置かれるのか後ろに置かれるのかという観点も存在する。こういった分析を一覧表にまとめたのが、次ページの第１表である。

第1表

言　語	句　構　造	「炎」関連語彙の有無とその位置
日本語	形容詞 *真赤な*+名詞 *炎*	有　　色彩語に後置
英語	形容詞 *flaming* +形容詞 *red*	有　　色彩語に前置
ドイツ語	形容詞 *flammend* + 形容詞 *rot*	有　　色彩語に前置
フランス語	形容詞 *rouge* + 形容詞 *vif*	無　　・・・・
イタリア語	形容詞 *rosso* + 名詞 *fiamma*	有　　色彩語に後置
スペイン語	形容詞 *rojo* + 形容詞 *vivo*	無　　・・・・

第1表によれば、“句構造に「形容詞+名詞」のタイプと「形容詞+形容詞」のタイプの二種類が存在する。また、「炎」関連語彙を欠いているタイプもあれば、それを有しているタイプもあり、それが「真赤な、赤い」という色彩語に前置されるタイプもあれば、後置されるタイプもある”ということが分かる。

このように、第1表のようなデータを基にして、母語と目標言語との間の対比を推し進め、総合していくのが対照言語学の手法である。

第2節　日伊対照言語学

日英対照言語学に関しては、國廣哲彌編『日英語比較講座』全5巻、大修館 1981 年、安藤貞雄『英語の論理・日本語の論理—対照言語学的研究』大修館、1986 年など、かなりの蓄積が有るのであるが、こと日伊対照言語学となると、数編の論文が散在するのみである。イタリア文化会館が年1回刊行する『イタリア関係図書目録』(これは日本で刊行された業績に限られている)の 1980 年度版以降に掲載の定期刊行物「語学」・「言語」の項を調べたところ、

郡　史郎「笑い声の聞きとりにおける文化差：日本人とイタリア人の場合」
　　近畿音声言語研究会編『音声言語』1、1985

田中俊子「イタリア語と日本語のテンスとアスペクト—現在の既然をめぐって」
　　東北大学教養部日本語研修コース編『東北大学日本語教育研究論集』1、pp.72-84、1986

古浦敏生「イタリア語の付加疑問とそれに対応する日本語の文末部—川端康成『古都』とそのイタリア語訳を資料として」、藤原与一編『言語類型論と文末詞』三弥井書店、pp.21-31,1993 (本書第2章として再録)

古浦敏生「イタリア語・日本語における色彩語彙の対照研究」、『南欧文化』16　pp.16-36,1995
　　(本書第1章として改定・再録)

Desantis, Giovanni:Italian versus Japanese, the Case of Reflexive Verbs
　　上智大学一般外国語主事室編『Lingua』9, pp.1-20,1998

が挙げられている。

このほか、細川千亜紀「指示詞の日伊対照研究」2001 (広島大学文学部卒業論文[1]) がある。

細川は、吉本ばなな『TUGUMI』1989、中央公論社とそのイタリア語訳 Banana Yoshimoto:Tsugumi,traduzione di Alessandro Giovanni Gerevini,1994,Feltrinelli を資料として、日本語原文に現れる指示詞「これ、この」「それ、その」「あれ、あの」と、イタリア語訳に現れる指示詞「questo」「quello」とを比較・対照している。questo は一般に「これ、この」に該当し、quello は一般に「あれ、あの」に該当する。そして、「それ、その」に該当するイタリア語の指示詞[2)] は今や使用されていない。その結果を細川は次のような表にまとめている。

第2表

指示詞	questo	quello	計
これ、この	34	36	70
それ、その	10	151	161
あれ、あの	1	39	40
計	45	226	271

第2表によれば、“日本語の「これ、この」が questo と対応している用例数は 34, quello と対応している用例数は 36、日本語の「あれ、あの」が questo と対応している用例数は 1、quello と対応している用例数は 39 であった” などのことが分かる。そして、日本語の「これ、この」は必ずしも questo にのみ対応するのではなく、quello で訳されるケースも多いこと、また、日本語の「それ、その」は概ね quello と対応していることも判明した。

以上述べたような断片的な試みは若干存在するものの、日伊対照言語学全般に関してはまだ語るほどの歴史はなく、緒についたばかりの状況であると言わざるを得ない。

第１章　色彩語彙に関する考察

第１節　はじめに

イタリア語の色彩表現に関して、Battaglia,S.& Pernicone,V.『イタリア語文法』[3]の「色彩形容詞」の項には次のように述べてある。“色彩形容詞の風変わりな特徴は、名詞によって修飾され得ることである。例えば、rosso fuoco 「火のように赤い」、verde cielo 「空のような緑色の」、verde bottiglia「びんの緑色の」、giallo crema「クリーム・イエローの」、nero carbone「石炭の黒色の」等。ここでは、fuoco 「火」、cielo 「空」、bottiglia 「びん」、crema 「クリーム」、carbone 「石炭」は修飾的価値を持った名詞である。” 確かに、これらの用例にはシンタクス的な面白さがある。また、De Felice,E.& Duro,A.『現代イタリア語・文化辞典』[4]の colore「色」の項を見ると、color bianco latte「ミルクの白色」、color grigio fumo 「煙の灰色」のような「color ＋色彩形容詞＋名詞」という叙上のパターンのほかに、例えば、color acciaio 「ハガネ色」、color ghiaccio「氷色」、color sale e pepe 「塩と胡椒色」などのような、筆者の目には新鮮な「color + 名詞」というパターンの用例も見つかった。

ここで筆者は、「この他にどんな用例があるのか？　どんな名詞が色彩表現の比喩に一役買っているのか？」という点に興味を覚え、以後、（第３節に述べる如く）ローマ中の画材店を廻り、色見本の蒐集に奔走することとなる。

本章では、この２つのパターン（「color ＋名詞」と「color ＋色彩形容詞＋名詞」）の表現を中心に、この「名詞」の位置にどんな名詞が現れるのか？　という点に着目してみたいと思う。

イタリア語の color acqua「水色」に対して、日本語でも mizu iro「水色」という対応形が存在する。color cenere「灰色」に対する hai iro「灰色」も同様である。しかし、color cammeo「カメオ色」、color tramontana「北風色」、 color arancio Sudan「スーダンのオレンジ色」といった色は、日本語には存在しない。これに対して、hiwada iro「桧皮色」、Edo murasaki「江戸紫」、Rikyu nezumi「利休鼠」といった色名は、日本語独特のものであろう。

上掲の color acqua と mizu iro (color は iro に、acqua は mizu にそれぞれ一致している)のように 平行した同じ表現形態のものを「isomorfo なもの」と呼ぶことにしよう。color cenere と hai iro に関しても同様のことが言える。このような isomorfo な色彩表現は、イタリア語と日本語との間でどの程度存在するのであろうか？さらに、color acqua と mizu iro に見られるような「…色」のパターン(以下、「単純色彩語」と呼ぶことにする)と、color arancio Sudan や Edo murasaki に見られるような「…の…(色)」のパターン(以下、「複合色彩語」と呼ぶことにする)とでは、 伊日両言語間でどういう差異・類似点が存在するのであろうか？イタリア語と日本語を対照させることによって、両言語の色彩語彙の特色をクローズアップさせることが本章の主目的である。

第2節　先行研究

イタリア語と日本語における色彩語彙の対照言語学的研究については、今のところ、先行研究は見当らない。しかし、イタリア語を含むいくつかの言語間では、若干存在する。Maria Grossmann『色彩と語彙…カタラン語、カスティリア語、イタリア語、ルーマニア語、ラテン語、ハンガリー語における色彩形容詞の意味論研究』[5] 1988, Tübingen と Enrico Arcaini「色彩の普遍性と文化の相対論 …フランス語とイタリア語の領域における対照分析」[6] 1987, Roma がそれである。

まず、Grossmann,M.は、413ページの大著である上掲書の中で、色彩語彙を次の 9種の系統に大別している。即ち、rosso 「赤色」系 45 種、giallo「黄色」系 30 種、bianco「白色」系 28 種、marrone「マロン色」系 28 種、azzurro「空色」系 24 種、verde 「緑色」系 22 種、grigio「灰色」系 18 種、viola 「スミレ色」系 11 種、nero「黒色」系 8 種。要するに、イタリア語では赤系統の色彩表現が最も多いという結果を示している。さらに、形容詞に関しては如何なる接頭辞・接尾辞が付加されているか？という観点から、また、名詞に関しては如何なる意味分野の語が多いか？という観点から分析を進めている。そして、これらの結果を、同じ方法で得たカタラン語、カスティリア語、ルーマニア語、ラテン語、ハンガリー語での結果と比較対照している。Grossmann,M.の著作は確かに大変な力作である。けれども、残念なことに、イタリア語に関しては辞書のみを資料としているため、蒐集された語彙数が214種とやや貧弱である。これら214種のうち、名詞はわずか 123 種である。因みに筆者の蒐集した名詞の異なり語数は 302 種である（第7節の第4表参照)。従って、結果も当然異なってくるのである。

次に、Enrico Arcaini 氏であるが、彼はローマ大学(文学・哲学部)教授で、応用言語学(Linguistica Applicata)を担当しておられる。上掲論文の内容を簡単に述べると、nero と noir「黒」、bianco と blanc「白」、rosso と rouge「赤」、verde と vert「緑」、giallo と jaune「黄」、blu と bleu「青」、bruno と brun「褐色」、rosa と rose 「バラ色」、grigio と gris「灰色」に代表される9種のペアを比較・対照し、イタリア語・フランス語に共通する表現形態、即ち、isomorfo なものと、そうでないものとを区別して提示したものである。例えば、isomorfo なものとしては、

mercato nero　と marché　noir　「闇市」(直訳：黒いマーケット)

formica bianca と fourmi blanche「白蟻」(直訳：白い蟻)

frutta verde　と fruits verts　「熟してない果物」(直訳：緑の果物)

などの用例が並んでいる。これに対して、イタリア語では「卵の黄身」のことを il rosso d'uovo「卵の赤」と言うが、フランス語では le jaune d'oeuf「卵の黄」と言う、とか、 フランス語では「本試験の前の模擬試験・実力テスト」のことを examen blanc「白い試験」と言うが、イタリア語では esame bianco「白い試験」とは言わないで、preesame (直訳「前試験」) を用いる

など、この種のデータが満載されている。

第3節　イタリア語における資料蒐集の方法と資料の略号

筆者は、1987年10月末より1988年 8月末までの10ケ月間、文部省在外研究員として、ローマ大学に留学した。その間、イタリア語史担当のFrancesco Sabatini教授の御指導を受けつつ、ローマ市内の画材店を回り、色見本（tavola cromatica　或いは　campionario dei colori）や色彩カタログ、並びに色彩カードの蒐集を行なった。それら色見本等の中から、単純色彩語・複合色彩語の２つのパターンの用例を抽出し、その一覧表を提示する。その際、使用した色見本等の略号（第４節で［　］内に表記）を、以下アルファベット順に列挙しておく。

ACRAF ----------ローマに本社を置くチェーン店A.C.R.A.F. 社(Aziende Chimiche Riunite Angelini Francesco の略）の色見本１種。

Attiva ----------ジェノヴァに本社を置くColorificio Attiva社（「活発な染料工場」の意）の色見本３種。

Carsen ----------ローマのCarsen Italiana 社の色見本１種。

Idropaint ----------パドヴァに塗料工場が在るIdropaint 社の色見本３種。

IVI ---------- 全国チェーンのIVI 社（Industrie Vernici Italiane「イタリア塗料工業」の略）の色見本４種。

Maimeri ---------- Gianni MaimeriとCarlo Maimeriとの共著『色彩カタログ（ Catalogo Colori)』1987,Milano 。

MV ---------- トリーノに在るM.V.Italia社の色見本２種。

SACOM ---------- 1905年創業のローマの老舗 S.A.C.O.M. 社(Società Ambrosi Colori O.M. の略）の色見本と色彩カード各１種。

Talens ---------- G.Martelli社の色見本１種。

なお、用例を可能な限り豊富にするために、植物・園芸図鑑やイタリア語辞典、イタリア語文法書からも引用した。その略号は以下のとおりである。また、第４節の［　］内に記した略号のうしろの数字はページ数を示している。

Battaglia-Pernicone-- Battaglia,S.& Pernicone,V.: *La grammatica italiana*,1957,Torino

De Felice-Duro ------ De Felice,E.& Duro,A.: *Dizionario della lingua e della civiltà italiana contemporanea*, 1976,Palumbo

Garzanti ----------*Dizionario Garzanti della lingua italiana*, Aldo Garzanti Editore,12a ed.,1974,Milano

Hazon-Garzanti ------ Hazon,M.: *Grande dizionario inglese-italiano, italiano- inglese*, Aldo Garzanti Editore, 22a ed.,1976, Milano

Palazzi ----------Palazzi,F.: *Novissimo dizionario della lingua italiana*, 1975,Milano

Petrocchi---------- Petrocchi,P.: *Nuovo dizionario scolastico della lingua italiana*,1961,Milano

Shogakukan ---------- 小学館伊和中辞典 ,1983

Tosco ---------- Tosco,U.『庭園・菜園・温室（*Giardini, orti e serre*)』全6巻 ,1969,Novara

Zingarelli ---------- Zingarelli,N.: *Il nuovo Zingarelli, vocabolario della lingua italiana*,11a ed.,1983,Bologna

さらに、在ローマの親友Franco Apruzzese氏とLuigi Alicandri 氏（いずれもローマ出身、60才代男性）にnative speakerとしてのチェックをお願いした。また、これらの他に両氏から教えて貰った用例もあり、それには［ ］内に、Sig.Franco, Sig.Luigiとして明記しておいた。さらに、Matteo Cestari 氏（広島大学留学生、ヴェネツィア大学日本語学科出身）の御教示により、12種の用例が加わることとなった。それには［ ］内に、Sig. Matteoとして明記しておいた。

第4節　イタリア語における色彩語彙資料

抽出した全用例を、まず単純色彩語・複合色彩語に大別し、以下アルファベット順に列挙する。全ての表現に共通の color（colore の語尾母音 -e の消失した形）という語は、紙面の都合上省略した。従って、color acciaio, color arancio Sudanは、単にacciaio, arancio Sudanとなっている。

また、両パターンに現れた全ての名詞を、『分類語彙表』[7] を参考にしつつ、次の 13 種に分類した。即ち、動物名（略号は「動」。ガチョウのくちばしは動物ではあるが、動物名ではないので「その他」とした。)、植物名（略号は「植」。細枝、草、新芽などは植物ではあるが植物名ではないので「その他」とした。)、鉱物名（略号は「鉱」。灰、砂などは鉱物名とはしないで「その他」とした。)、自然現象（風、光、水、氷、炎など、略号は「自」)、地形（山野、海、砂漠、洞穴など、略号は「形」)、天体（空、星。略号は「天」)、素材（生産物ではあるが、さらにまた何かを作り出す材料となるもの、例えば紙、絹、象牙など、略号は「素」)、日用品（生産物のうち、素材とはならないもの。但し、機械類は除く。略号は「日」)、機械類（自動車、貨車、電気器具、信号など、略号は「機」)、食品・嗜好品（一部「動物名」や「植物名」と競合するもの、例えばイカやアンズもあるが、食卓にしばしば登場するものは食品として分類した。略号は「食」)、人名（但し、マドンナも加えた。なお、兵士、黒人の頭は人間（またはその一部）ではあるが人名ではないので「その他」とした。略号は「人」)、地名（国名も含む。さらに、架空の地名ヘス

ペリア「夕べの国」も含む。略号は「地」)、その他（以上の 12 種に分類しきれないもの、略号は「他」)。そしてそれぞれの用例の頭に、その略号を付しておく。

なお、例えば color Algeria「アルジェリア色」のように、壁の色彩にのみ用いられるものには◇印が付してある[8)]。

（1）単純色彩語

素	acciaio	ハガネ色[De Felice-Duro,432]
植	acero	楓色[Idropaint]
自	acqua	水色[Idropaint]
自	alba	夜明け色[Idropaint]
食	albicocca	アンズ色[Attiva]
地	Algeria	◇アルジェリア色[Idropaint]
鉱	alluminio	アルミニウム色[Idropaint]
植	amaranto	ハゲイトウ色[De Felice-Duro,90]
鉱	ambra	琥珀色[Sig.Matteo]
鉱	ametista	アメジスト色[Sig.Franco]
動	antilope	レイヨウ色[Idropaint]
動	aragosta	イセエビ色[IVI;MV]
食	arancio	オレンジ色[Attiva;Carsen]
鉱	ardesia	板岩色[Tosco,I,46]
鉱	arenaria	砂岩色[Carsen]
鉱	argento	銀色[IVI;MV]
鉱	argilla	粘土色[Attiva]
地	Atene	◇アテネ色[Idropaint]
地	Atlanta	◇アトランタ（米国ジョージア州都）色[Idropaint]
自	autunno	秋色[Idropaint]
食	avana	ハバナ・タバコ色[Idropaint]
素	avorio	象牙色[Carsen;IVI;SACOM]
植	bambù	竹色[Attiva]
食	banana	バナナ色[MV]
自	bora	ボーラ（冬の季節風）色[Idropaint]
自	brezza	微風色[Idropaint]
自	brina	霜色[Idropaint]
鉱	bronzo	青銅色[Attiva]

食	caffè	コーヒー色[De Felice-Duro,432]
日	cammeo	カメオ色[Idropaint]
動	camoscio	カモシカ色[Attiva;SACOM]
植	canapa	大麻色[Sig.Matteo]
食	cannella	肉桂色[Tosco,V,29-30]
食	carne	肉色[De Felice-Duro,432]
食	carota	人参色[Zingarelli,309]
食	castagno	栗色[Idropaint]
動	castoro	ビーバー色[Idropaint]
植	cedro	ヒマラヤ杉色[Idropaint]
素	cemento	セメント色[Idropaint]
他	cenere	灰色[Attiva]
食	champagne	シャンペン色[Idropaint]
植	ciclamino	シクラメン色[IVI]
天	cielo	空色[Tosco,VI,46]
動	cigno	白鳥色[Idropaint]
地	Cina	◇中国色[Idropaint]
食	cioccolato	チョコレート色[Idropaint]
日	cipria	おしろい色[Idropaint]
地	Cipro	◇キプロス色[Idropaint]
食	cognac	コニャック色[Idropaint]
素	conchiglia	貝殻色[Idropaint]
素	corallo	サンゴ色[IVI]
地	Corea	◇韓国色[Idropaint]
地	Corfù	◇コルフ（島）色[Idropaint]
日	cotto toscano	トスカーナの（焼物の）テラコッタ色[Idropaint]
他	crema	クリーム色[Attiva]
素	cuoio	革色[Carsen]
動	daino	鹿色[Idropaint]
形	deserto	砂漠色[Idropaint]
他	Douglas	ダグラス色[Idropaint] [9]
地	Dover	◇ドーバー（海峡）色[Idropaint]
形	duna	砂丘色[Attiva]

素	ebano	黒檀色[Idropaint]
鉱	ferro	鉄色[Sig.Matteo]
鉱	ferro battuto	鍛えられた鉄色[Idropaint]
自	fiamma	炎色[Tosco,I,59]
植	fiordaliso	ヤグルマソウ色[Idropaint]
食	fragola	イチゴ色[De Felice-Duro,432]
植	frassino	トネリコ色[Idropaint]
食	frumento	小麦色[Idropaint]
植	fucsia	フクシア色[Sig.Matteo]
自	fumo	煙色[Idropaint]
天	galassia	銀河色[Idropaint]
自	ghiaccio	氷色[Idropaint]
植	ginestra	エニシダ色[Idropaint]
植	girasole	ヒマワリ色[Idropaint]
植	glicine	藤色[Sig.Matteo]
植	indaco	藍色[Sig.Luigi]
形	lago	湖色[Idropaint]
食	latte	乳色[Sig.Matteo]
植	lavanda	ラベンダー色[Idropaint]
素	legno	材木色[Sig.Franco]
自	libeccio	リベッチォ（暖かい南西の強風）色[Idropaint]
植	lilla	ライラック色[De Felice-Duro,1107]
地	Londra	ロンドン色[Idropaint] [10]
動	lontra	カワウソ色[Idropaint]
食	malto	麦芽色[Idropaint]
植	malva	マルバ色[De Felice-Duro,1162]
地	Manciuria	◇満州色[Idropaint]
食	mandarino	マンダリン色[Idropaint]
他	marina	海軍色[Idropaint]
地	Marocco	モロッコ色[Idropaint] [10]
素	mattone	レンガ色[De Felice-Duro,432]
素	minio	鉛丹色[Tosco,VI,38]
自	mistràl	木枯し色[Idropaint]

素	mogano	マホガニー色[Idropaint]
食	moka	モカ（コーヒー）色[Idropaint]
自	monsone	モンスーン色[Idropaint]
植	narciso	水仙色[Idropaint]
自	nebbia	霧色[Idropaint]
自	neve	雪色[Sig.Matteo]
植	nocciola	ハシバミ（の実）色[Attiva;Carsen;MV]
食	noce	クルミ色[SACOM]
自	nuvola	雲色[Attiva]
形	oasi	オアシス色[Idropaint]
鉱	ocra	黄土色[MV,SACOM]
自	ombra	日陰色[Idropaint]
鉱	onice	オニックス色[Idropaint]
植	orchidea	ラン色[Attiva]
鉱	oro	金色[MV]
素	ottone	真鍮色[Idropaint]
他	paglia	麦藁色[Idropaint]
素	palissandro	ブラジル紫檀色[Idropaint]
食	panna	生クリーム色[Idropaint]
動	pavone	孔雀色[Sig.Matteo]
地	Pechino	◇北京色[Idropaint]
他	pelle	皮膚色[Sig.Franco]
素	peltro	シロメ色[Idropaint]
鉱	piombo	鉛色[Idropaint]
食	pisello	エンドウ豆色[Tosco,II,30]
他	polvere	埃色[Idropaint]
日	porcellana	磁器色[Idropaint]
形	prato	牧草地色[Idropaint]
鉱	rame	銅色[IVI]
地	Rodi	◇ロードス（島）色[Idropaint]
植	rosa	バラ色[Idropaint]
植	rovere	オーク色[Idropaint]
鉱	rubino	ルビー色[De Felice-Duro,1730]

鉱	ruggine	錆色[Idropaint]
他	sabbia	砂色[Sig.Matteo]
食	sale e pepe	塩と胡椒色[De Felice-Duro,1438] （白髪まじりの頭の色）
植	salice	柳色[Idropaint]
食	salmone	鮭色[Tosco,III,58]
形	savana	サバンナ色[Idropaint]
自	scirocco	シロッコ（北アフリカから吹く熱風）色[Idropaint]
食	senape	カラシ色[MV]
食	seppia	甲イカ・紋甲イカ色[Talens]
自	sereno	晴天色[Idropaint]
形	sierra	連山・山脈色[Idropaint]
他	siesta	午睡色[MV]
地	Singapore	◇シンガポール色[Idropaint]
天	Sirio	シリウス星色[Idropaint]
他	spazio	空間色[Idropaint]
形	spiaggia	砂浜色[Idropaint]
食	tabacco	タバコ色[Attiva;MV]
素	tartaruga	鼈甲（べっこう）色[Shogakukan,1497]
食	tè	茶色[Sig.Matteo]
素	teak	チーク（材）色[Idropaint]
地	terra di Siena	シエナの土地色[Attiva;Idropaint] [11]
自	terra d'ombra	日陰の地色[Attiva]
他	testa di moro	黒人の頭色[Attiva;Carsen]
植	timo	ジャコウ草色[Idropaint]
鉱	topazio	トパーズ色[Sig.Franco]
動	tortora	キジバト色[Idropaint]
自	tramontana	北風色[Idropaint]
地	Tunisia	◇チュニジア色[Idropaint]
鉱	turchese	トルコ石色[MV]
植	ulivo	オリーブの木色[Idropaint]
動	vanessa	クジャク蝶色[Idropaint]
鉱	verderame	緑青色[Sig.Matteo]
素	vermiglione	朱色[Talens]

他 vimini （柳・籐の）細枝色[Idropaint]
植 viola スミレ色[Tosco,VI,44]
（2）複合色彩語
地 arancio Sudan スーダンのオレンジ色[SACOM]
食 avorio albana 白ブドウ酒の象牙色[Idropaint]
他 avorio impero 帝国の象牙色[IVI]
自 avorio luce 光の象牙色[MV]
他 avorio moschea モスクの象牙色[Idropaint]
植 avorio mughetto スズランの象牙色[MV]
食 avorio panna 生クリームの象牙色[Idropaint]
形 avorio riviera 海岸の象牙色[IVI]
素 avorio seta 絹の象牙色[SACOM]
天 azzurro cielo 空の空色[Sig.Luigi]
形 azzurro grotta 洞穴の空色[IVI]
形 azzurro mare 海の空色[Attiva;MV]
自 azzurro mattino 朝の空色[IVI]
地 azzurro Niagara ナイヤガラ（滝）の空色[MV]
機 azzurro pullman 大型観光バスの空色[Idropaint]
形 azzurro riviera 海岸の空色[MV]
素 beige cuoio 革のベージュ色[Attiva]
形 beige deserto 砂漠のベージュ色[IVI]
他 beige sabbia 砂のベージュ色[IVI]
素 beige seta 絹のベージュ色[Idropaint]
他 beige vanità 空虚のベージュ色[MV]
鉱 bianco calce 石灰の白色[De Felice-Duro,257]
素 bianco carta 紙の白色[Shogakukan,1620]
素 bianco cera 蝋の白色[Sig.Franco]
他 bianco crema クリームの白色[Tosco,V,34]
機 bianco elettrodomestici 家庭用電気器具の白色[IVI]
日 bianco gesso チョークの白色[De Felice-Duro,257]
自 bianco ghiaccio 氷の白色[Carsen]
他 bianco impero 帝国の白色[Attiva]
食 bianco latte ミルクの白色[Idropaint]

自	bianco luce	光の白色[Idropaint]
他	bianco madreperla	真珠母の白色[Idropaint]
食	bianco meringa	メレンゲの白色[Idropaint]
自	bianco neve	雪の白色[Attiva]
食	bianco panna	生クリームの白色[Attiva]
素	bianco perla	真珠の白色[Maimeri]
他	bianco sabbia	砂の白色[Attiva]
鉱	bianco zinco	亜鉛の白色[Sig.Franco]
他	blu accademia	陸軍（の軍服）の青色[Idropaint]
他	blu aviazione	空軍（の軍服）の青色[Idropaint]
他	blu avio	空軍（の軍服）の青色[Sig.Franco] [12]
天	blu cielo	空の青色[Attiva]
鉱	blu cobalto	コバルトの青色[SACOM]
他	blu elettrico	電気の青色[Sig.Luigi]
地	blu Esperia	ヘスペリア（夕べの国）の青色[SACOM]
日	blu jeans	ジーンズの青色[Idropaint]
鉱	blu lapislazzuli	ラピスラズリの青色[Sig.Franco]
人	blu Madonna	聖母マリア（のベール）の青色[Idropaint]
他	blu navy	ネイビー・ブルー[Attiva]
自	blu notte	夜の青色[Garzanti,396]
形	blu oceano	大洋の青色[Idropaint]
他	blu oltremare	海のかなたの青色[ACRAF;IVI;SACOM]
鉱	blu opale	オパールの青色[Tosco,VI,24]
地	blu Oriente	東洋の青色[MV]
地	blu Parigi	パリの青色[SACOM]
日	blu pastello	パステルの青色[Talens]
動	blu pavone	クジャクの青色[De Felice-Duro,270]
鉱	blu petrolio	石油の青色[Sig.Luigi]
地	blu Ponza	ポンツァ（島）の青色[SACOM]
地	blu Prussia	プロシアの青色[ACRAF]
地	blu Sorrento	ソレントの青色[SACOM]
鉱	blu turchese	トルコ石の青色[Maimeri;Talens]
植	bruno oliva	オリーブの褐色[Maimeri]

食	bruno tabacco	タバコの褐色[Maimeri]
人	bruno Van Dyck	(画家) ヴァン・ダイク (に独特) の褐色[Maimeri]
日	celeste carta da zucchero	砂糖を包む紙の淡青色[Sig.Luigi] [13]
自	celeste ghiaccio	氷の淡青色[SACOM]
食	giallo albicocca	アンズの黄色[Sig.Luigi]
食	giallo arancio	オレンジの黄色[Maimeri]
素	giallo avorio	象牙の黄色[Attiva]
食	giallo banana	バナナの黄色[IVI]
他	giallo becco d'oca	ガチョウのくちばしの黄色[Sig.Franco]
鉱	giallo cadmio	カドミウムの黄色[Sig.Franco]
地	giallo Canarie	カナリア (諸島) の黄色[SACOM]
動	giallo canarino	カナリアの黄色[De Felice-Duro,854]
植	giallo cedro	ヒマラヤ杉の黄色[IVI]
他	giallo crema	クリームの黄色[Sig.Luigi]
鉱	giallo creta	粘土の黄色[Idropaint]
鉱	giallo cromo	クロームの黄色[Carsen;SACOM]
形	giallo deserto	砂漠の黄色[Maimeri]
鉱	giallo diamante	ダイヤモンドの黄色[Idropaint]
食	giallo frumento	小麦の黄色[Attiva;MV]
植	giallo ginestra	エニシダの黄色[IVI]
食	giallo limone	レモンの黄色[Idropaint]
食	giallo mais	トウモロコシの黄色[Attiva;Idropaint]
地	giallo Napoli	ナポリの黄色[Maimeri]
鉱	giallo ocra	黄土の黄色[IVI;SACOM]
鉱	giallo oro	金の黄色[MV;SACOM]
他	giallo ossido	酸化物の黄色[Attiva;Idropaint]
他	giallo paglia	麦藁の黄色[SACOM]
日	giallo pastello	パステルの黄色[IVI]
動	giallo pulcino	ヒヨコの黄色[Sig.Franco]
他	giallo sabbia	砂の黄色[Attiva;Talens]
地	giallo Siena	シエナの黄色[Attiva]
天	giallo sole	太陽の黄色[IVI;MV;SACOM]
鉱	giallo topazio	トパーズの黄色 (MV)

植	giallo zafferano	サフランの黄色[Talens]
鉱	giallo zircone	ジルコンの黄色[Attiva]
鉱	giallo zolfo	硫黄の黄色[Tosco,III,51]
素	grigio acciaio	ハガネの灰色[De Felice-Duro,889]
鉱	grigio alabastro	雪花石膏の灰色[IVI]
鉱	grigio argento	銀の灰色[Idropaint]
食	grigio avana	ハバナ・タバコの灰色[De Felice-Duro,889]
植	grigio betulla	樺の木の灰色[IVI]
機	grigio carri	貨車の灰色[Maimeri]
他	grigio cenere	灰の灰色[Tosco,IV,34]
鉱	grigio ferro	鉄の灰色[Attiva]
自	grigio fumo	煙の灰色[IVI;SACOM]
植	grigio genziana	リンドウの灰色[MV]
自	grigio ghiaccio	氷の灰色[Sig.Luigi]
鉱	grigio grafite	黒鉛の灰色[Idropaint]
日	grigio lavagna	黒板の灰色[De Felice-Duro,1080]
機	grigio macchina	機械の灰色[Attiva]
形	grigio miniera	鉱山の灰色[IVI]
自	grigio nebbia	霧の灰色[Attiva]
自	grigio nuvola	雲の灰色[Attiva;SACOM]
食	grigio ostrica	牡蠣の灰色[Idropaint]
素	grigio perla	真珠の灰色[Carsen;IVI]
他	grigio pietra	石の灰色[SACOM]
鉱	grigio piombo	鉛の灰色[De Felice-Duro,889]
鉱	grigio platino	白金の灰色[Idropaint]
他	grigio polvere	埃の灰色[MV]
鉱	grigio pomice	軽石の灰色[Idropaint]
植	grigio rosa	バラの灰色[Attiva]
自	grigio schiuma	泡の灰色[IVi]
食	grigio seppia	イカの灰色[Sig.Luigi]
他	grigio stile	スタイル（モード）の灰色[IVI]
動	grigio talpa	モグラの灰色[De Felice-Duro,889]
動	grigio topo	ネズミの灰色[SACOM]

動	grigio tortora	キジバトの灰色[De Felice-Duro,889]
植	kaki oliva	オリーブのカーキ色[SACOM]
食	marrone caffè	コーヒーのマロン色[Sig.Luigi]
他	marrone cancello	格子の門のマロン色[Idropaint]
食	marrone cannella	肉桂のマロン色[Sig.Luigi]
食	marrone castagno	栗のマロン色[Sig.Luigi]
食	marrone cioccolato	チョコレートのマロン色[Sig.Luigi]
素	marrone cuoio	革のマロン色[Idropaint]
食	marrone tabacco	タバコのマロン色[Sig.Luigi]
鉱	nero antracite	無煙炭の黒色[De Felice-Duro,432]
素	nero avorio	象牙の黒色[Maimeri]
鉱	nero carbone	石炭の黒色[Battaglia-Pernicone,164]
素	nero ebano	黒檀の黒色[Sig.Luigi]
自	nero fumo	煙の黒色[Sig.Luigi]
鉱	nero grafite	黒鉛の黒色[Attiva]
日	oro ducato	ドゥカート金貨の金色[Maimeri]
日	oro zecchino	ツェッキーノ金貨の金色[Maimeri]
植	porporino ciclame	シクラメンの紫色[Tosco,VI,59]
自	rosa alba	夜明けのバラ色[SACOM]
他	rosa balocco	遊戯のバラ色[MV]
食	rosa carne	肉のバラ色[Hazon-Garzanti,1178]
植	rosa cartamo	ベニバナのバラ色[Maimeri]
植	rosa ciclame	シクラメンのバラ色[Tosco,I,57]
素	rosa corallo	サンゴのバラ色[Tosco,I,36]
日	rosa pastello	パステルのバラ色[Talens]
食	rosa pesca	桃のバラ色[Tosco,I,59]
食	rosa salmone	鮭のバラ色[Tosco,I,62]
素	rosa velluto	ビロードのバラ色[Idropaint]
植	rosso alfa	アフリカ・ハネガヤの赤色[Idropaint]
植	rosso amaranto	ハゲイトウの赤色[SACOM]
食	rosso arancio	オレンジの赤色[SACOM]
自	rosso aurora	オーロラの赤色[SACOM]
機	rosso auto	自動車の赤色[Attiva;SACOM]

日	rosso bandiera	(伊) 国旗の赤色[De Felice-Duro,1725]
地	rosso Bordeaux	ボルドー (ワイン) の赤色[SACOM]
地	rosso Capri	カプリ (島) の赤色[SACOM]
食	rosso carne	肉の赤色[Sig.Luigi]
食	rosso ciliegia	サクランボの赤色[Petrocchi,222]
素	rosso cinabro	辰砂の赤色[Idropaint]
素	rosso corallo	サンゴの赤色[Tosco,IV,39]
機	rosso corsa	(Ferrari の) 競走車の赤色[SACOM]
自	rosso fiamme	炎の赤色[De Felice-Duro,1725]
食	rosso fragola	イチゴの赤色[Sig.Luigi]
自	rosso fuoco	火の赤色[MV]
素	rosso mattone	レンガの赤色[De Felice-Duro,1195]
素	rosso minio	鉛丹の赤色[SACOM]
素	rosso mogano	マホガニーの赤色[Sig.Luigi]
他	rosso ossido	酸化物の赤色[Attiva;MV]
日	rosso pastello	パステルの赤色[Talens]
地	rosso Persia	ペルシャの赤色[SACOM]
地	rosso Pompei	ポンペイ (壁画) の赤色[Attiva]
鉱	rosso rame	銅の赤色[Sig.Luigi]
鉱	rosso rubino	ルビーの赤色[Sig.Luigi]
鉱	rosso ruggine	錆の赤色[Tosco,I,22]
他	rosso sangue	血の赤色[SACOM]
機	rosso segnale	信号の赤色[Attiva;Carsen;SACOM]
日	rosso terracotta	テラコッタ土器の赤色[Idropaint]
人	rosso Tiziano	(画家) ティツィアーノ (に独特) の赤色[Sig.Franco]
素	rosso vermiglione	朱の赤色[ACRAF;SACOM]
食	rosso vino	ワインの赤色[Tosco,V,34]
自	verde acqua	水の緑色[IVI;SACOM]
日	verde bandiera	(伊) 国旗の緑色[Attiva;Carsen;MV]
形	verde bosco	森の緑色[Attiva;Talens]
日	verde bottiglia	ビンの緑色[Idropaint]
鉱	verde bronzo	青銅の緑色[Talens]
形	verde canneto	葦の原の緑色[IVI]

機	verde carlinga	(飛行機の) 操縦席の緑色[Maimeri]
形	verde collina	丘の緑色[SACOM]
鉱	verde cromo	クロームの緑色[Idropaint]
他	verde erba	草の緑色[Talens]
形	verde foresta	森林の緑色[Attiva;MV]
他	verde germoglio	新芽の緑色[MV]
鉱	verde giada	ヒスイの緑色[Attiva]
形	verde giardino	庭の緑色[IVI]
地	verde Irlanda	アイルランドの緑色[SACOM]
地	verde Italia	イタリアの緑色[SACOM]
機	verde lampione	街灯の緑色[Idropaint]
植	verde malva	マルバの緑色[Petrocchi,1312]
形	verde mare	海の緑色[SACOM]
食	verde mela	リンゴの緑色[Idropaint]
地	verde Messico	メキシコの緑色[IVI]
他	verde militare	兵士の緑色[Sig.Luigi]
素	verde muschio	ジャコウの緑色[MV]
植	verde oliva	オリーブの緑色[De Felice-Duro,2169]
他	verde ossido	酸化物の緑色[Idropaint]
植	verde palmeto	ヤシの林の緑色[IVI]
形	verde palude	沼の緑色[MV]
人	verde Paolo Veronese	(画家) パオロ・ヴェロネーゼ (に独特) の緑色 [Maimeri]
日	verde pastello	パステルの緑色[IVI;Talens]
日	verde penicillina	ペニシリンの緑色[Sig.Franco]
他	verde persiana	鎧戸の緑色[Carsen;MV]
植	verde pino	松の緑色[Talens]
食	verde pisello	エンドウ豆の緑色[Attiva;SACOM]
植	verde pistacchio	ピスタシオの木の緑色[Zingarelli,2131]
食	verde porro	西洋ネギの緑色[Palazzi,1563]
形	verde prateria	草原の緑色[Idropaint]
形	verde prato	牧草地の緑色[IVI;SACOM]
自	verde primavera	春の緑色[Attiva;MV]
鉱	verde rame	銅の緑色[Palazzi,1563]

他	verde riposo	休息の緑色[MV]
形	verde riviera	海岸の緑色[SACOM]
地	verde Roma	ローマの緑色[SACOM]
植	verde salice	柳の緑色[Idropaint]
植	verde salvia	サルビアの緑色[IVI]
鉱	verde smeraldo	エメラルドの緑色[ACRAF;SACOM]
鉱	verde turchese	トルコ石の緑色[ACRAF]
他	verde uniformi	制服の緑色[Maimeri]
機	verde vagone	鉄道車両の緑色[Attiva]
植	verde vescia	ホコリタケの緑色[Maimeri]
他	verde vittoria	勝利（者の月桂冠）の緑色[Idropaint]
植	violetto fucsia	フクシアのスミレ色[Sig.Matteo]
日	violetto pastello	パステルのスミレ色[Talens]

第５節 日本語における資料蒐集の方法と資料の略号

イタリア語と日本語を対照させる際、やはり、イタリア語における資料体と同じレベルの資料体からデータを集めるべきであろう。従って、筆者は広島市内の画材店より色見本や色彩カタログを蒐集し、それらの中から単純色彩語と複合色彩語に絞って用例を抽出した。そして、若干の国語辞典からの用例も加えることにした。第６節に掲載の、それぞれの用例の後に、出典の略号が示してあるが、それらをここでまとめておこう。

(角川)……時枝誠記・吉田精一編『角川国語中辞典』角川書店、昭和48年
(学研)……金田一春彦・池田弥三郎編『学研国語大辞典』学習研究社、第二版、昭和63年
(広辞苑)……新村出編『広辞苑』岩波書店、第二版補訂版、昭和56年
(小学館Ａ)…林大監修『国語大辞典、言泉』小学館、昭和62年
(小学館Ｂ)…金田一京助ほか『日本国語大辞典』全20巻、小学館、昭和51年
(手帳)……『色の手帳…色見本と文献例とでつづる色名ガイド…』尚学図書編集、昭和62年

なお、（アングルカラー)(ベルクール)(ケンラン)(Mケントラシャ)(マーメイド)(ミューズコットン)(レザック６６Ｔ)(レザック６６Ｙ)(レザック７１)(レザック７５)(ＳＴカバー)(あららぎ)(ふじ)(きぬもみ)(もみがみ)(むろまち)(水干絵具鳳凰)(新日本画絵具)(岩絵具鳳凰)は、いずれも色見本の名称である。

第６節 日本語における色彩語彙資料

前節で提示した色見本等からデータを抽出する際、留意すべき点がいくつか存在する。

①明治以降欧米から輸入されたカタカナ外来語で表記された色彩語は、たとえ国語辞典に登場しても、対照研究にはふさわしくないものと考え、採用しなかった。従って、チョコレート色、カナリア色、クリーム色、ミルク色、オレンジ色、オリーブ色、スカイ・ブルー、コバルト・ブルーなど、ポピュラーなものでも、取り除いてある。但し、江戸時代或いはそれ以前に借用されたベンガラやタバコは、日本語への定着度が高いと考え、ベンガラ色・タバコ色は用例に加えることにした。

②「浬色(くりいろ)」、「赭(そお)」のような古語も、現代イタリア語との対照研究にはふさわしくないので、採用しなかった。

③「瓶覗(かめのぞき)」・「一斤染(いっこんぞめ)」・「練色(ねりいろ)」のように、「覗く」・「染める」・「練る」という動詞の連用形から転じた名詞は、本来の名詞とは言い難いので、採用しなかった。「今様(いまよう)」も同様に、本来の名詞ではないと判断した。

④「金色(きんいろ)」に対する「金色(こんじき)」、「銀色(しろがねいろ)」に対する「銀色(ぎんいろ)」のように、文字が同じで読み方が異なる表現は、どちらか一方しか採用しなかった。

⑤例えば、「桔梗紫」は「桔梗の花のような紫色」という比喩的な表現である。これに対して、「小豆鼠」は、「小豆色と鼠色との混色」であって、「小豆のような鼠色」ではない。このような混色の用例であっても、それが複合色彩語のパターンに合致していれば採用した。

⑥由来や色のイメージが捉え難いと思われる語彙には、“　”内に解説を加えた。

抽出した全用例を、まず単純色彩語と複合色彩語の二つのパターンに大別し、以下、アルファベット順に列挙する。そして、全ての名詞を、『分類語彙表』[7] を参考にしつつ、イタリア語の資料分析と同じ方法で分類した。

なお、☆印の付いたものに関しては、イタリア語にも同じ表現のある、いわゆる「isomorfo な色彩表現」である。 これらの後には、イタリア語の表現を添えておいた。また、ローマ字表記・和名リストでは、 iro「色」という共通項は、煩瑣になるので省略した。但し、「色」を shoku とか jiki とか読むのが一般的な場合のみ、(shoku),(jiki),(色) として示した。

(1)単純色彩語

食 abura 油 (手帳) “菜種油の色”

☆植 ai 藍 (手帳)=color indaco

植 ajisai 紫陽花 (アングルカラー)

☆鉱 akagane 銅 (広辞苑)=color rame

植 akane 茜 (広辞苑) “茜の根で染めた色”

☆自 akebono 曙 (広辞苑)=color alba

他 aku 灰汁 (手帳)

植 ama 亜麻（手帳）
天 ama 天（手帳）
食 ame 飴（手帳）
☆食 anzu 杏（マーメイド）=color albicocca
☆植 aotake 青竹（マーメイド）=color bambù [14]
植 asagi 浅葱（手帳）
植 ayame 菖蒲（手帳）
植 azami 薊（ミューズコットン）
食 azuki 小豆（ベルクール）
☆植 bara 薔薇（ケンラン）=color rosa
☆素 bekko べっ甲（学研）=color tartaruga
鉱 bengara ベンガラ（手帳）
植 beni 紅（レザック６６Ｔ）“紅花の花弁の色”
植 botan 牡丹（ベルクール）
食 budo 葡萄（広辞苑）
☆食 cha 茶（レザック７１）=color tè
☆食 chichi 乳（角川）=color latte
植 chigusa 千草（手帳）
食 choji 丁子（手帳）
食 daidai 橙（レザック６６Ｙ）
☆食 ebi 海老（手帳）=color aragosta
素 enji 臙脂（広辞苑）
鉱 en-paku(shoku) 鉛白(色)(手帳)
☆植 fuji 藤（レザック７５）=color glicine
鉱 gunjo 群青（広辞苑）
素 guzumi 具墨（角川）“具墨は合わせ絵の具の一、胡粉に墨を混ぜたもの”
☆他 hada 肌（手帳）=color pelle
☆他 hai 灰（レザック７１）=color cenere
他 hana 花（手帳）
他 hatoba 鳩羽（手帳）
植 haze 櫨（手帳）
自 hi 火（広辞苑）“火のような深紅の染め色”
☆植 himawari 向日葵（ＳＴカバー）=color girasole

鉱 hisui 翡翠（レザック７５）
動 hiwa 鶸（ＳＴカバー）
素 hiwada 桧皮（ＳＴカバー）
自 hiyori 日和（Mケントラシャ）
☆自 honoo 炎（ベルクール）=color fiamma
☆食 ichigo 苺（手帳）=color fragola
植 kaba 蒲（手帳）
食 kaki 柿（もみがみ）
素 kakishibu 柿渋（角川）
植 kanzo 萱草（手帳）
☆鉱 karakane 唐金（角川）“ 青銅の色”=color bronzo
☆食 karashi 辛子（きぬもみ）=color senape
他 karasuba 烏羽（広辞苑）
他 karasunonureba 烏の濡羽（広辞苑）
他 kareha 枯葉（岩絵具鳳凰）
他 karekusa 枯草（角川）
形 kareno 枯野（むろまち）
植 kariyasu 刈安（小学館Ａ）“刈安はイネ科の多年草”
自 kasumi 霞（角川）“曙色と同じ色”
☆素 kawa 革（手帳）=color cuoio
日 kawarake 土器（手帳）
人 Kenpo 憲法（手帳）“吉岡憲法創案の染めものの色”
日 keshizumi 消炭（手帳）
他 kes(shoku) 血(色)（広辞苑）“血の色”
植 kikyo 桔梗（ＳＴカバー）
☆鉱 kin 金（広辞苑）=color oro
食 kinome 木の芽（マーメイド）
動 kitsune 狐（手帳）
他 ko 香（手帳）“木の煎じ汁による染めものの色”
植 kobai 紅梅（マーメイド）(手帳)
鉱 kogane 黄金（あららぎ）“金色と同じ色”
☆鉱 kohaku 琥珀（マーメイド）=color ambra
食 koji 柑子（手帳）“蜜柑の果実の色”

植 koke 苔（もみがみ）
他 kokubo(shoku) 国防(色)（手帳）“陸軍軍服の色”
☆食 komugi 小麦（手帳）=color frumento
他 kuchiba 朽葉（きぬもみ）
植 kuchinashi 梔子（手帳）
☆動 kujaku 孔雀（アングルカラー）=color pavone
☆食 kuri 栗（マーメイド）=color castagno
☆食 kurumi 胡桃（レザック７１）=color noce
他 kusa 草（もみがみ）
他 kusaba 草葉（広辞苑）“草色と同じ色”
植 kuwa 桑（ふじ）
植 kyara 伽羅（手帳）
食 maccha 抹茶（手帳）
他 matsuba 松葉（レザック６６Ｔ）
☆食 mikan 蜜柑（ミューズコットン）=color mandarino
植 miru 海松（手帳）
☆自 mizu 水（Mケントラシャ）=color acqua
他 moegi 萌黄（ベルクール）
植 mokuran(jiki) 木蘭(色)（角川）“木蘭樹の皮で染めた色”
植 momo 桃（レザック６６Ｙ）
植 nadeshiko 撫子（手帳）
他 nae 苗（手帳）
他 namakabe 生壁（手帳）
☆鉱 namari 鉛（手帳）=color piombo
他 nando 納戸（手帳）
植 nanohana 菜の花（手帳）
素 negishi 根岸（アングルカラー）“根岸壁のような色”
動 nezumi 鼠（レザック６６Ｙ）
☆食 nikkei 肉桂（手帳）=color cannella
☆食 niku 肉（広辞苑）=color carne
☆食 ninjin 人参（手帳）=color carota
他 ochiba 落葉（広辞苑）
食 ochiguri 落栗（広辞苑）“落ちた栗の実の色”

☆鉱 odo 黄土（きぬもみ）=color ocra
植 ouchi 楝（小学館A）“楝は栴檀の古名”
動 rakuda 駱駝（レザック６６Ｔ）
☆素 renga 煉瓦（ＳＴカバー）=color mattone
人 Rikyu 利休（ミューズコットン）“千利休の好みの色”
素 ro 蝋（手帳）
☆鉱 rokusho 緑青（手帳）=color verderame
鉱 ruri 瑠璃（ベルクール）
☆鉱 sabi 錆（手帳）=color ruggine
☆食 sake 鮭（ＳＴカバー）=color salmone
植 sakura 桜（Mケントラシャ）
☆素 sango 珊瑚（ケンラン）=color corallo
植 sasa 笹（広辞苑）
☆素 seiji 青磁（アングルカラー）=color porcellana
植 sekichiku 石竹（手帳）
鉱 shakudo 赤銅（手帳）
植 shiba 芝（むろまち）
素 shibugami 渋紙（手帳）
他 shigoku 至極（広辞苑）“最高の高官の服の色”
地 Shinbashi 新橋（手帳）“新橋の芸者達に好まれた色”
☆鉱 shinchu 真鍮（角川）=color ottone
素 shinju 真珠（角川）
自 shinonome 東雲（手帳）“曙色と同じ色”
植 shion 紫苑（手帳）
植 shirakaba 白樺（ふじ）
☆鉱 shirogane 銀（ミューズコットン）=color argento
☆素 shu 朱（手帳）=color vermiglione
☆自 sora 空（レザック７５）=color cielo
日 sumi 墨（マーメイド）
☆植 sumire 菫（手帳）=color viola
☆他 suna 砂（手帳）=color sabbia
植 suo 蘇芳（ＳＴカバー）
他 susu 煤（広辞苑）

植 susuki 薄（マーメイド）
素 susutake 煤竹（手帳）
動 suzume 雀（広辞苑）
植 suzuran 鈴蘭（アングルカラー）
☆食 tabako 煙草（ＳＴカバー）=color tabacco
素 taisha 代赭（広辞苑）“代赭は帯褐色の粉末顔料”
食 tamago 卵（Mケントラシャ）
植 tanpopo 蒲公英（手帳）
☆鉱 tetsu 鉄（ＳＴカバー）=color ferro
動 tobi 鳶（手帳）
動 tokage 蜥蜴（広辞苑）
動 toki 鴇（ミューズコットン）
他 tokiwa 常磐（ＳＴカバー）
植 tokusa 木賊（手帳）
素 tonoko 砥粉（あららぎ）
他 torinoko 鳥の子（手帳）
他 tsuchi 土（広辞苑）
植 tsurubami つるばみ（むろまち）
植 tsutsuji 躑躅（手帳）
植 tsuyukusa 露草（手帳）
動 uguisu 鶯（ケンラン）
植 ukon 鬱金（手帳）
他 wakaba 若葉（ミューズコットン）
他 wakakusa 若草（ケンラン）
他 wakame 若芽（角川）“新芽の色”
他 wakanae 若苗（広辞苑）
植 wakatake 若竹（マーメイド）
植 warabi 蕨（ミューズコットン）
食 wasabi 山葵（ふじ）
植 wasurenagusa 勿忘草（手帳）
☆動 yamabato 山鳩（広辞苑）=color tortora
植 yamabuki 山吹（ベルクール）
☆植 yanagi 柳（手帳）=color salice

他 yanagiba 柳葉（角川）
植 yomogi 蓬（Mケントラシャ）
☆自 yuki 雪（レザック６６Ｔ）=color neve
食 zakuro 石榴（ミューズコットン）
☆素 zoge 象牙（レザック６６Ｙ）=color avorio
(2)複合色彩語
他 hana-ai 花藍（水干絵具鳳凰）
☆植 beni-aka 紅赤（手帳）=color rosa cartamo
地 Indo-aka インド赤（手帳）
人 Baiko-cha 梅幸茶（角川）“初代尾上菊五郎(俳号、梅幸)の好みの色”
食 choji-cha 丁子茶（手帳）
人 Danjuro-cha 団十郎茶（手帳）“市川団十郎の好みの色”
食 ebi-cha 海老茶（手帳）
地 Edo-cha 江戸茶（手帳）
動 hiwa-cha 鶸茶（手帳）
植 kaba-cha 蒲茶（手帳）
地 Kara-cha 唐茶（手帳）
鉱 kin-cha 金茶（手帳）
☆食 kuri-cha 栗茶（レザック６６Ｔ）=color marrone castagno
他 kurikawa-cha 栗皮茶（広辞苑）
植 kuwa-cha 桑茶（手帳）
植 miru-cha 海松茶（広辞苑）
他 nando-cha 納戸茶（手帳）
日 omeshi-cha 御召茶（手帳）
人 Rikan-cha 璃寛茶（手帳）“二世嵐吉三郎(俳号、璃寛)の好みの色”
人 Rikyu-cha 利休茶（手帳）“利休色と同じ色”
人 Roko-cha 路考茶（手帳）“二世瀬川菊之丞(俳号、路考)の好みの色”
他 sensai-cha 仙斎茶（手帳）“「仙斎」は人名ではなくて「千歳」”
人 Shikan-cha 芝翫茶（手帳）“三世中村歌右衛門(俳号、芝翫)好みの色”
動 suzume-cha 雀茶（角川）
動 uguisu-cha 鶯茶（手帳）
鉱 gin-paku(shoku) 銀白(色)（角川）
☆食 nyu-haku(shoku) 乳白(色)（手帳）=color bianco latte

☆自 sep-paku 雪白（広辞苑）=color bianco neve
地 Kyo-hi 京緋（広辞苑）“京都で染めた緋色”
動 shojo-hi 猩々緋（手帳）
素 shik-koku 漆黒（手帳）
食 nasu-kon 茄子紺（手帳）
鉱 tek-kon 鉄紺（手帳）
地 Kara-kurenai 唐紅（手帳）
☆他 kek-ko(shoku) 血紅(色)（小学館B）=color rosso sangue
☆植 to-ko(shoku) 橙紅(色)（学研）“熟した橙の実の色”=color rosso arancio
動 sho-ko 猩紅（広辞苑）“猩々緋色と同じ色”
☆他 so-ryoku(shoku) 草緑(色)（角川）“草色と同じ色”=color verde erba
動 uguisu-midori 鶯緑（新日本画絵具）
他 yo-ryoku(shoku) 葉緑(色)（角川）
地 Edo-murasaki 江戸紫（手帳）
植 fuji-murasaki 藤紫（ケンラン）
他 hana-murasaki 花紫（手帳）
植 kikyo-murasaki 桔梗紫（岩絵具鳳凰）
他 kodai-murasaki 古代紫（手帳）
地 Kyo-murasaki 京紫（手帳）
食 azuki-nezumi 小豆鼠（学研）
植 botan-nezumi 牡丹鼠（角川）
食 budo-nezumi 葡萄鼠（手帳）
植 fuji-nezumi 藤鼠（角川）
地 Fukagawa-nezumi 深川鼠（手帳）
☆鉱 gin-nezu(mi) 銀鼠（広辞苑）=color grigio argento
☆他 hatoba-nezumi 鳩羽鼠（広辞苑）=color grigio tortora[15]
食 kuri-nezumi 栗鼠（学研）
人 Rikyu-nezumi 利休鼠（手帳）
鉱 sabi-nezu(mi) 錆鼠（手帳）
植 sakura-nezumi 桜鼠（角川）
自 shimo-nezumi 霜鼠（マーメイド）
植 ume-nezu(mi) 梅鼠（手帳）
食 to-o(shoku) 橙黄(色)（手帳）

他 hana-rokusho 花緑青（水干絵具鳳凰）
他 kodai-rokusho 古代緑青（岩絵具鳳凰）
他 matsuba-rokusho 松葉緑青（岩絵具鳳凰）
動 uguisu-rokusho 鶯緑青（岩絵具鳳凰）
地 Kamakura-shu 鎌倉朱（岩絵具鳳凰）
他 kodai-shu 古代朱（岩絵具鳳凰）

第7節　イタリア語における色彩語彙資料の分析

イタリア語の色彩語彙資料に関して、以下の４つの視点から分析を試みることにする。

（1）如何なるジャンルの名詞が頻出するのか？

まず単純色彩語・複合色彩語ごとに、それぞれの用例の頭に付した分類に従って、その用例数と全体の割合(%) を示したのが第３表である。

第　3　表

単純色彩語				複合色彩語			
順位	語彙分類	用例数	（％）	順位	語彙分類	用例数	（％）
1	食　品	27	16.7	1	鉱物名	31	15.3
2	植物名	25	15.4	2	食　品	27	13.3
3	鉱物名	20	12.3	3	植物名	20	9.9
3	自然現象	20	12.3	4	地　名	18	8.9
5	素　材	17	10.5	5	素　材	16	7.9
6	地　名	16	9.9	6	自然現象	15	7.4
7	動物名	10	6.2	7	地　形	14	6.9
8	地　形	8	4.9	8	日用品	11	5.4
9	日用品	4	2.5	9	機械類	10	5.0
１０	天　体	3	1.9	１０	動物名	6	3.0
１１	機械類	0	0	１１	人　名	4	2.0
１１	人　名	0	0	１２	天　体	2	1.0
	その他	12	7.4		その他	28	13.9
計		162	100.0	計		202	99.9

なお、複合色彩語に関して言えば、例えば、color giallo avorio「象牙の黄色」と color nero avorio 「象牙の黒色」では、同じ avorio「象牙」が現れている。このような場合、語彙分類の用例数としては、２ではなくて、異なり語数の１を採用した。

第３表で、注目すべき点は２つあると思われる。

(a)単純色彩語（162 例）よりも、複合色彩語（202 例）の方が種類が豊富であること。

(b)両パターンともに、（ 多少の異同はあるにしても）同じジャンルの名詞が上位を占めていること。即ち、食品、鉱物名、植物名、素材、自然現象、地名といったジャンルが１位から５位・

6位の順となっていること。つまり、“パターンによって使用される名詞のジャンルが異なる”とは言い難いこと。

そこで、両パターンを通じて「異なり語数」としての名詞の数を調べたのが次の第 4 表である。例えば単純色彩語の color avorio「象牙色」と複合色彩語の color nero avorio「象牙の黒色」という 2 つの表現が存在するのであるが、その場合、同じ avorio「象牙」が現れているので、異なり語数は 1 になる。

第 4 表

順位	語彙分類	用例数	(%)
1	鉱物名	40	13.2
2	食 品	38	12.6
3	植物名	37	12.3
4	地 名	34	11.3
5	自然現象	27	8.9
6	素 材	24	7.9
7	地 形	20	6.6
8	日用品	15	5.0
9	動物名	14	4.6
10	機械類	10	3.3
11	天 体	4	1.3
11	人 名	4	1.3
	その他	35	11.6
計		302	99.9

第4表からは、“鉱物名、食品、植物名、地名がそれぞれ全体の 10%を超え、頻出する名詞のジャンルである”と言えよう。

(2) 個々のジャンルの名詞の中に、特徴的なものはないか？

(a)地名は全体で 34 種現れるのであるが、Esperia 「ヘスペリア、夕べの国」を除き、すべて現実の地名である。それらの内訳を示すと、単純色彩語では、◇Algeria, ◇Atene, ◇Atlanta, ◇Cina, ◇Cipro, ◇Corea, ◇Corfù, ◇Dover,Londra, ◇Manciuria, ◇Marocco, ◇Pechino, ◇Rodi, ◇Singapore, (terra di) Siena, ◇Tunisia の 16 種が、複合色彩語では Bordeaux, Canarie, Capri, Irlanda, Italia, Messico, Napoli, Niagara, Oriente, Parigi, Persia, Pompei, Ponza, Prussia, Roma, Siena, Sorrento, Sudan の 18 種が現れる。

ここで、イタリア国内の地名(国名も含む。下線を付したもの) と外国の地名(国名も含む) との比率を調べてみると、単純色彩語では 1 対 15 、複合色彩語では 8 対 10 となっていて、後者のパターンにイタリアの地名が多く現われ、前者のパターンでは

外国の地名が圧倒的に多いことが分かる。

また、◇印を付した壁にのみ使用される色彩 14 種は、いずれも単純色彩語であることも特記すべきことであろう。

(b) 自然現象

全体の 8.9%を占める「自然現象」であるが、このうち「風」を表わす名詞が多い点に注目したい。即ち、bora「ボーラ (冬の季節風)」、brezza「微風」、libeccio「リベッチオ (暖かい南西の強風)」、mistràl「木枯し」、monsone「モンスーン」、sirocco「シロッコ (北アフリカから吹く熱風)」、tramontana「北風」、の7種。これらはいずれも単純色彩語でしか現われない。

(c) 人名

人名は Madonna 「聖母マリア」を加えても4種であり、数は少ないのであるが、いずれも複合色彩語に現われる。他の3例は Paolo Veronese, Tiziano, Van Dyck であり、彼らはその使用した色彩に特色のある著名な画家である。

(3) 最も表現のヴァラエティに富んだ色彩は何か？

さて、複合色彩語についてのみ言えることであるが、個々の色彩形容詞ごとに、それぞれを修飾・限定する名詞の種類の数を表にまとめたのが第5表である。この表から分かるように、イタリア人にとって最も表現のヴァラエティに富んだ色彩は verde「緑色」であって、飛び抜けて多く、50 種。次いで giallo「黄色」と rosso 「赤色」の 32 種、grigio「灰色」の 31 種の3色が第2グループを形成し、その後、やや遅れて blu「青色」、bianco「白色」、rosa「バラ色、ピンク」と続いている。

第 5 表

順位	色彩形容詞	名詞の種類	順位	色彩形容詞	名詞の種類
1	verde	50	11	nero	6
2	giallo	32	12	beige	5
2	rosso	32	13	bruno	3
4	grigio	31	14	celeste	2
5	blu	24	14	oro	2
6	bianco	17	14	violetto	2
7	rosa	10	17	arancio	1
8	avorio	8	17	kaki	1
9	azzurro	7	17	porporino	1
9	marrone	7			

(4) この他、注目に値することはないか？

(a)複合色彩語において、同じ名詞が異なった色彩形容詞を修飾するという、現象が見られる。例えば、color giallo avorio「象牙の黄色」: color nero avorio 「象牙の黒色」。も

っとも、後者は「象牙を焼いて作った黒色顔料、アイボリー・ブラック」である。また、color bianco sabbia「砂の白色」: color beige sabbia「砂のベージュ色」:color giallo sabbia 「砂の黄色」。砂にはいろいろな色彩のものが在るからであろう。この種のケースは、この他にも数多い。

(b) 形態論的観点から注目したいのは、用例中の名詞のほとんどが単数形であるのに、例外的に複数形も現われるということである。例えば、color bianco elettrodomestici「家庭用電気器具の白色」における下線部は、elettrodomestico の複数形であり、また、color grigio carri「車両の灰色」、color verde uniformi「制服の緑色」における下線部も、それぞれ carro, uniforme の複数形である。(但し、color vimini「細枝色」の下線部は、vimine がその単数形ではあるが、これは主として複数形で用いられる名詞なので、ここには加えないこととする。)

第8節　日本語における色彩語彙資料の分析

日本語の色彩語彙資料に関して、以下の４つの視点から分析することにしよう。

（1）如何なるジャンルの名詞が頻出するのか？

第　6　表

単純色彩語				複合色彩語			
順位	語彙分類	用例数	%	順位	語彙分類	用例数	%
1	植物名	５２	29.4	1	植物名	１０	18.9
2	食　品	２９	16.4	2	食　品	8	15.1
3	鉱物名	１８	10.2	3	人　名	6	11.3
3	素　材	１８	10.2	3	地　名	6	11.3
5	動物名	１１	6.2	5	動物名	5	9.4
6	自然現象	9	5.1	6	鉱物名	4	7.5
7	日用品	3	1.7	7	自然現象	2	3.8
8	人　名	2	1.1	8	素　材	1	1.9
9	地　名	1	0.6	8	日用品	1	1.9
9	天　体	1	0.6	１０	天　体	0	0.0
9	地　形	1	0.6	１０	地　形	0	0.0
１２	機械類	0	0.0	１０	機械類	0	0.0
	その他	３２	18.1		その他	１０	18.9
計		１７７	100.2	計		５３	100.0

まず、単純色彩語と複合色彩語の両パターンごとに、それぞれの用例の頭に付した分類に従って、その用例数と全体の割合（%）を示したのが第６表である。(%は小数第２位を四捨五入したものである。)

なお、異なり語数の算定方法は、イタリア語における分析の場合と同じである。

第６表からは、単純色彩語も複合色彩語も植物名が圧倒的多数を占めており、食品がそれに続いていると言えよう。

次に、単純色彩語・複合色彩語を通じて異なり語数としての名詞の数を調べたのが第７表である。この表からも植物名と食品が群を抜いていると言えよう。

第７表

順位	語彙分類	用例数	（％）
1	植物名	54	27.1
2	食　品	29	14.6
3	素　材	19	9.5
4	鉱物名	18	9.0
5	動物名	13	6.5
6	自然現象	10	5.0
7	地　名	7	3.5
7	人　名	7	3.5
9	日用品	4	2.0
１０	天　体	1	0.5
１０	地　形	1	0.5
	その他	36	18.1
計		199	99.8

（２）個々のジャンルの名詞の中に特徴的なものはないか？

(a)人名

人名を表わす語彙が比較的多い。団十郎、梅幸、芝翫、璃寛、路考など、歌舞伎役者が圧倒的に多い。

(b)動物名

動物名の中では鳥の名前が比較的多い。鶯、孔雀、雀、朱鷺、鳶、鶸、山鳩。

（３）最も表現のヴァラエティに富んだ色彩は何か？

イタリア語の分析の場合と同様、個々の色彩ごとに、それぞれを修飾・限定する名詞の種類の数を表にまとめたのが次ページの第８表である。

第８表から分かるように、日本人にとって最も表現のヴァラエティに富んだ色彩は「茶色」であって、飛び抜けて多く２２種。次いで「鼠色」の13種、と続いている。

（４）この他、注目に値することはないか？

「その他」に分類した中には、植物の生育状況を表わす語彙が比較的多い。例えば、落葉、枯草、枯葉、朽葉、若草、若苗、若葉、若芽。

第 8 表

順位	色彩名詞	名詞の種類	順位	色彩名詞	名詞の種類
1	茶	22	8	緋	2
2	鼠	13	8	紺	2
3	紫	6	8	朱	2
4	紅	4	12	黄	1
4	緑青	4	12	黒	1
6	白	3	12	藍	1
6	緑	3	合計		66
8	赤	2			

第9節　まとめ

まず、異なり語数ではない用例数全体をここで示しておこう。

第 9 表

	単純色彩語	複合色彩語
日 本 語	177	66
イタリア語	162	241

第9表によれば、日本語では単純色彩語のほうが複合色彩語よりもはるかに多い(177 : 66)。逆に、イタリア語では複合色彩語のほうが単純色彩語よりも多い(162:241)。また、単純色彩語同士を比較すると、日本語177例、 イタリア語162例と、ほぼ拮抗している。 それに対して、複合色彩語同士を比較すると、 66 例 : 241 例となり、極端な差が現れている。日本語における複合色彩語の、この貧弱さを補うために、スカイ・ブルー、ワイン・レッド、クリーム・イエローなどのカタカナ外来語が大量に入り込んだのであろう。(但し、本稿では、これらカタカナ外来語は取り除いてある。第6節①参照)

最後に、本章で判明した主な事柄を列挙しておこう。

(1)イタリア語では、color bianco latte「乳白色」のような複合色彩語のほうが color acqua「水色」のような単純色彩語よりも多い(241:162)。 逆に、日本語では、mizu iro「水色」のような単純色彩語のほうが nyu haku shoku「乳白色」のような複合色彩語よりもはるかに多い(177:66)。(第9表参照)

(2)単純色彩語では、伊日両言語ともに植物名と食品が頻出する。しかし、複合色彩語に関して言えば、イタリア語で第1位を占めている鉱物名は、日本語では第6位に下がっているし、逆に、第11位であった人名は第3位に躍進している。また、イタリア語では、地形(14例)・機械類(10 例)が相当数存在するのに、日本語ではともにゼロとなっている。このように、複合色彩語では伊日両言語間にかなりのバラツキが見られる。 (第3表・第6表参照)

(3)複合色彩語において、最も多くの名詞によって修飾・限定される色彩は、イタリア語では verde

「緑」(50種)、日本語では「茶」(22種)である。換言すれば、イタリア語では「緑」が、日本語では「茶」が最もヴァラエティに富んだ色彩であるということになろう。また、「鼠色」は、伊日両言語に共通して、比較的下位区分の多い色彩である。(第5表・第8表参照)

(4)伊日両言語間に対応形の存在するisomorfoな表現は次のとおりである。

①単純色彩語…合計50例

color acqua=mizu iro「水色」
color alba=akebono iro「曙色」
color albicocca=anzu iro「杏色」
color ambra=kohaku iro「琥珀色」
color aragosta=ebi iro「海老色」
color argento=shirogane iro「銀色」
color avorio=zoge iro「象牙色」
color bambù=aotake iro「青竹色」
color bronzo=karakane iro「唐金色」
color cannella=nikkei iro「肉桂色」
color carne=niku iro「肉色」
color carota=ninjin iro「人参色」
color castagno=kuri iro「栗色」
color cenere=hai iro「灰色」
color cielo=sora iro「空色」
color corallo=sango iro「珊瑚色」
color cuoio=kawa iro「革色」
color ferro=tetsu iro「鉄色」
color fiamma=honoo iro「炎色」
color fragola=ichigo iro「苺色」
color frumento=komugi iro「小麦色」
color girasole=himawari iro「向日葵色」
color glicine=fuji iro「藤色」
color indaco=ai iro「藍色」
color latte=chichi iro「乳色」
color mandarino=mikan iro「蜜柑色」
color mattone=renga iro「煉瓦色」
color neve=yuki iro「雪色」

color noce=kurumi iro「胡桃色」
color ocra=odo iro「黄土色」
color oro=kin iro「金色」
color ottone=shinchu iro「真鍮色」
color pavone=kujaku iro「孔雀色」
color pelle=hada iro「肌色」
color piombo=namari iro「鉛色」
color porcellana=seiji iro「青磁色」
color rame=akagane iro「銅色」
color rosa=bara iro「薔薇色」
color ruggine=sabi iro「錆色」
color sabbia=suna iro「砂色」
color salice=yanagi iro「柳色」
color salmone=sake iro「鮭色」
color senape=karashi iro「芥子色」
color tabacco=tabako iro「煙草色」
color tartaruga=bekko iro「鼈甲色」
color tè =cha iro「茶色」
color tortora=yamabato iro「山鳩色」
color verderame=rokusho iro「緑青色」
color vermiglione=shu iro「朱色」
color viola=sumire iro「菫色」

②複合色彩語…合計9例

color bianco latte=nyu haku shoku「乳白色」
color bianco neve=sep-paku (shoku)「雪白(色)」
color grigio argento=gin nezu(mi) (iro)「銀鼠(色)」
color grigio tortora=hatoba nezumi (iro)「鳩羽鼠(色)」
color marrone castagno=kuri cha (iro)「栗茶(色)」
color rosa cartamo=beni aka (iro)「紅赤(色)」
color rosso arancio=to ko (shoku)「橙紅(色)」
color rosso sangue=kek-ko (shoku)「血紅(色)」
color verde erba=so ryoku (shoku)「草緑(色)」

以上のように、単純色彩語50例、複合色彩語9例が isomorfo な色彩表現であって、単純色

彩語のほうがはるかに多い。その要因としては、①単純色彩語のほうが母集団が大きい。②複合色彩語では、二項目に亘って概念の一致が必要であるので、当然、その確率は低くなる。といったことが挙げられよう。

また、isomorfo な色彩表現に現れる語彙は、食品(11 例)・鉱物名(9 例)・植物名(8 例)に多いことが分かる。

第２章　文末表現に関する考察

第１節 はじめに

日本文学作品のイタリア語訳の中から、川端康成『古都』のイタリア語訳[16]と原文の日本語[17]を資料として、文末部に関する用例を具体的に対照させてみよう。

(例1a) Voi mi capite, vero? (123)

(例1b) おわかりやしとくれやすやろ。(190)

(例2a) È vicino a Takao, non è vero? (54)

(例2b) 高雄から近おすやろ。(82)

(例3a) Ci sono gli impiegati, no? (138)

(例3b) 店員さんやなんか、おいやすやろ。(213)

(例4a) Se è così, potresti anche andar solo, no? (9)

(例4b) そんなら、おひとりでお花を見といやしたら、よろしおすやんか。(11)

(例1a)は(例1b)の、(例2a)は(例2b)の、(例3a)は(例3b)の、(例4a)は(例4b)の、それぞれイタリア語訳である。ここで、(例1b)(例2b)(例3b)の日本語の文末部は、いずれも「やろ」であるのに、イタリア語訳ではそれぞれ別の表現が対応している。即ち、(例1a)ではvero?「ほんとうか？」、(例2a)ではnon　è vero?「ほんとうではないか？」、(例3a)では no?「そうではないか？」となっている。(例1a)のveroは、「ほんとうの」という意味の形容詞である。(例2a)のnonは、英語のnotに相当する否定詞、èは英語のisに相当する動詞である。また、(例3a)のnoは、英語のNoに相当する否定詞である。ここで、(例1a)には否定詞が存在しないのに、(例2a)(例3a)には否定詞が存在する点が注目に値する。

次に、(例3a)(例4a)のイタリア語訳の文末部には、ともにno?が用いられているのに、日本語の原文では、(例3b)では「やろ」、(例4b)では「やんか」が対応している。「やんか」の「ん」は、否定詞であるので、ここでも否定詞の有無に関する違いが見られる。

さて、上掲イタリア語訳の文末部(vero? などの下線部)は、次節で詳述するように、「付加疑問」と言われるものである。このイタリア語の付加疑問の箇所に、どんな日本語の文末部が対応しているのであろうか？[18]　その際、否定詞がどのように絡んでいるのであろうか？これが本章の主要テーマである。このテーマにふさわしい用例を収集するために、京都方言ではあるが、対話文の頻出する作品：川端康成『古都』を資料にすることとした。

第２節 イタリア語の付加疑問

「付加疑問(tag question)」という用語は、Otto Jespersen (1860-1943)が大著『現代英語文法(全七巻)』の第五巻25節1-1において使用した述語である[19]。これは、もっぱら口語におい

て確認を求めるための疑問文である。例えば、
He was angry, wasn't he? 「彼は腹を立てていたんだね」
He wasn't angry, was he? 「彼は腹を立てていなかったんだね」
における下線部がそれである。

イタリア語では、英語におけるような be 動詞・助動詞 do を用いる付加疑問の体系は無く[20]、従って、tag question の訳語は見当らない。しかし、第1節の(例 1a)(例 2a)(例 3a)における下線部のように、いわゆる tag question に相当する文末部は確かに存在する。けれども、こういった文末部に言及しているイタリア語文法書はほとんどないのが現状である。

僅かに Serianni, L.[21]は、疑問文を「実際の疑問文(frasi interrogative reali)」と「見せ掛けの疑問文(frasi interrogative fittizie)」とに大別し、後者の中の一つに tag question を位置付け、「修辞的疑問文 (frasi interrogative retoriche)」と命名している。彼は、Marchese, A.の定義[22]を援用し、「修辞的疑問文とは、実際の情報が欠如していることを想定しているものではなく、質問の中に既に含まれている同意または拒否を対話者に大袈裟に要求する文のことである」としている。そして、修辞的疑問文の実例として： non è vero?, è vero?, vero?, nevvero?, no? などを挙げている。またこれらの内のいくつか(例えば、vero?, no?)は、日常会話では単なる口癖のように用いられることも指摘している。

第3節 付加疑問の用例

ここで、川端康成『古都』のイタリア語訳に現われた付加疑問をすべて抜き出し、そのヴァラエティを調べてみよう。筆者は、「否定詞を含まない付加疑問」を「肯定の付加疑問」、「否定詞を含む付加疑問」を「否定の付加疑問」と呼ぶことにする。

まず、肯定の付加疑問としては、(例 1a)の vero?「ほんとうか？」の他に、以下のタイプも存在する。

(例5a) È appena nata, ti pare? (62)

(例5b) 生れたばっかりどすな。(95)

(例6a) Ma se non do uno sguardo, non potrò mai capire quali sono gli affari di casa, vi pare? (117)

(例6b) 帳簿をのぞいとかな、うちがどんな商売や、わからしまへんやろ。(180)

(例7a) In verità, dal giorno della festa di Gion, t'ho visto distratta e pensosa diverse volte, pensavo di domandarti se non avessi magari trovato un giovanotto che ti piacesse, sai? (105)

(例 7b) じつはな、祇園祭から、千恵子にときどき、ちょっとやけど、ぼんやりしてるようなときがあるさかい、好きな人ができたんやろかと、お母さんは、聞いてみよ思てたのえ。

(162)

(例8a) Anche tra gli alberi vivi ve ne sono alcuni più vecchi della stessa Kyoto, sbaglio? (46)

(例8b) 生きてる木にしても、この京より古い老樹があんのと、ちがいますか。(71)

(例5a)は(例5b)の、(例6a)は(例6b)の、(例7a)は(例7b)の、(例8a)は(例8b)の、それぞれイタリア語訳である。ここで、イタリア語の付加疑問の部分を直訳しておこう。(例5a)の ti pare?は「君にはそう思われるか？」、(例6a)の vi pare?は「あなたにはそう思われますか？」、(例7a)の sai?は「君は知っているか？」、(例8a)の sbaglio?は「私は間違っているか？」の意である。

次に、否定の付加疑問としては、(例2a)の non è vero?「ほんとうではないか？」、(例3a)の no?「そうではないか？」の他に、以下のタイプも存在する。

(例9a) Puoi fare a meno di tentar di nasconderlo, non ti pare? (132)

(例9b) かくさんでも、よろしやないか。(203)

(例10a) Se conducevo anche i fratelli, le macchine si fermavano, non vi pare?(49)

(例10b) 弟もつれてきたら、うちの機がとまってしまいますやないか。(75)

(例11a) Tuttavia, papà, guardando questi alberi, vien quasi paura a immaginare la loro forza, non ti sembra? (111)

(例11b) そやけど、お父さん、あの楠の幹でも、妙にひろがった枝でも、よう見ているとこわいように思いまっせ、えらい力やおへんの？ (169)

(例9a)は(例9b)の、(例10a)は(例10b)の、(例11a)は(例11b)の、それぞれイタリア語訳である。ここで、イタリア語の付加疑問の部分を直訳しておこう。(例9a)の non ti pare?は、「君にはそう思われないか？」、(例 10a)の non vi pare?は、「あなたにはそう思われませんか？」、(例11a)の non ti sembra?は、「君にはそう思われないか？」の意である。

これらすべての付加疑問の用例数を、肯定・否定に分けて示したのが第10表である。

第10表

肯定の付加疑問	用例数	否定の付加疑問	用例数
vero?	23	no?	32
ti pare?	2	non vi pare?	6
sai?	2	non è vero?	5
vi pare?	1	non ti pare?	1
sbaglio?	1	non ti sembra?	1
計	29	計	45

第10表によれば、肯定の付加疑問としては vero?が、否定の付加疑問としては no?が最も使用頻度が高いことが分かる。以下、節を改めて、用例をこの両者に絞って詳しく分析していくことにしよう。

第4節 肯定の付加疑問 vero?「ほんとうか？」に対応する京都方言の文末部

上掲の(例1a)(例1b)では、vero? は、文末部「やろ」と対応していたのであるが、「やろ」以外にも次のような文末部との対応が見られる。

(例12a) La catena del Higashiyama, vero? (15)

(例12b) 東山のつづきかなあ？(20)

(例13a) Posso svolgerlo tutto e guardarlo, vero? (68)

(例13b) ここへのばして、見させてもろて、よろしおすな。(103)

(例14a) Mi capite, vero? (102)

(例14b) わかっとくれやすやろな。(157)

(例15a) Niente da fare, vero? (40)

(例15b) あかんのやな。(61)

(例16a) Che bel tempo, vero? (78)

(例16b) ええ、お天気で…。(118)

即ち、(例12b)では「なあ」が、(例13b)では「な」が、(例14b)では「やろな」が、(例15b)では「やな」が、それぞれ対応している。ここで、「なあ」は「な(na)」の母音が長音化したものであるし、「やろな」は「やろ」と「な」との融合形であろう。また、「やな」は「やろな」の語中音消失形(ya[ro]na)であると考えられよう。従って、これらの文末部は、究極的には、「やろ」と「な」とに還元できるものと思われる。

なお、(例16b)におけるように、対応する文末部が欠落している場合も存在する。

第5節 否定の付加疑問 no?「そうではないか？」に対応する京都方言の文末部

上掲の(例3a)(例3b)では、no? は、文末部「やろ」と、(例4a)(例4b)では「やんか」と対応していたのであるが、この「やろ」・「やんか」以外にも以下のような文末部との対応が見られる。

(例17a) Penso dobbiate rincasare, no? (124)

(例17b) もう、帰らんといかんのどすやろな。(191)

(例18a) Bella casa, no? (145)

(例18b) ええ、おうちやな。(225)

(例19a) Da parte mia son grato, ma sarà un inconveniente per voi che Ryusuke diserti il vostro opificio, no? (150)

(例 19b) うちには、ありがたいことどすけど…。お店の方は、竜助さんがおいやさへんとお困りどすやろに…。(234)

(例20a) Ha un debole per le ragazze, no? (50)

(例20b) 若い娘には、弱いのかいな。(77)
(例21a) Pensavo che le nuove foglie degli alberi togliessero quasi il respiro, e invece è fresco, no? (55)
(例21b) みどりがもっと、むんむんするか思うてたけど、すずしいやないの。(82)
(例22a) Sapete bene che non è mia, no? (90)
(例22b) うちの子やないことは、よう知っといやすやおへんか。(136)
(例23a) Anche tu indossi i suoi kimono, no? (31)
(例23b) お母さんかて、お父さんのきものやおへんの。(46)
(例24a) La felicità è breve, la tristezza lunga, si dice, no? (153)
(例24b) さいわいは短うて、さびしさは長いのとちがいまっしゃろか。(239)

(例17b)では「やろな」が、(例18b)では「やな」が、(例19b)では「やろに」が、(例20b)では「かいな」が、それぞれ対応している。ここでは、「やろ」系統と「な」系統の文末部の他に、「かい」も現われている。

一方、(例21b)では「やないの」が、(例22b)では「やおへんか」が、(例23b)では「やおへんの」が、それぞれ対応している。これらの文末部にはいずれも、「ない」・「ん」・「おへん(即ち、ありません)」という否定詞が含まれている。

なお、(例24b)では、「ちがいまっしゃろか」が対応しており、これは、「やろ」や「やんか」の如き助動詞・助詞のみで構成される文末部とはややレベルの異なった(即ち、動詞をも含む)文末部であると思われる。

第6節 付加疑問と否定詞との関係

第10表に示した如く、肯定の付加疑問 vero?「ほんとうか?」の用例数が23、否定の付加疑問 no?「そうではないか?」の用例数が 32 であった。本節では、これらの付加疑問とそれに対応する京都方言の文末部を、否定詞を含むものと含まないものとに分けて比較・対照してみたいと思う。但し、付加疑問が文末部とうまく対応していない(例 16a)(例 16b)と、ややレベルの異なる対応を見せる(例24a)(例24b)は、ここでは除外することにする。

例えば、(例1a)(例1b)では、肯定の付加疑問 vero?が肯定の文末部「やろ」と対応している。次に、(例 3a)(例 3b)では、否定の付加疑問 no?が肯定の文末部「やろ」と対応している。しかし、(例 4a)(例 4b)では、否定の付加疑問 no?が否定の文末部「やんか」と対応している。こういった組合せを次ページの第11表にまとめてみよう。

第 11 表によれば、例えば“イタリア語の付加疑問が肯定のとき(即ち、vero? が用いられているとき)、それに対応する日本語の文末部も肯定である場合(例えば、「やろ」などで対応している場合)が22例あった。そして、それは全体の41.5%に当たる”などのことが分かる。第11

表で注目すべきことは、次の３点であろう。

①イタリア語の付加疑問が肯定の場合、それに対応する日本語の文末部も肯定である。

第11表

イタリア語の付加疑問	日本語(京都方言) の文末部	用例数	%
肯定	肯定	22	41.5
肯定	否定	0	0.0
否定	肯定	23	43.4
否定	否定	8	15.1
合計		53	100.0

②イタリア語の付加疑問が否定の場合、それに対応する日本語の文末部には肯定・否定の２種が現われる。

③イタリア語の付加疑問が肯定であれ否定であれ、それに対応する日本語の文末部は、その８割までが肯定である。

第7節 まとめ

De Felice-Duro[23]によれば、“vero?「ほんとうか？」は、è vero?「それはほんとうであるか？」の短縮されたものであり、non è vero? 「それはほんとうではないか？」とも同じものである。これらは、肯定の返事を想定する質問として、即ち、相手から確認を要求するためのものとして用いられる”とされている。また、Garzanti の伊々辞典[24]では、“no? 「そうではないか？」は、non è vero? 「それはほんとうではないか？」と同じものである”とされている。だとすれば、論理的には「vero? と no?は同じものである」ということになる。但し、De Felice-Duro[23]によれば、“no? は、non è vero? と競合し、相手に確認を要求するために用いられる。そして、相手に注意を促しつつ、自分が言ったことを強調するために(per sottolineare)用いられる(下線筆者)”とされている。従って、vero?も no?もほとんど同義であるが、no?の方がやや強い表現ではないかと筆者には思われる。

一方、日本語の「やろ」と「やんか」を比較すると、否定詞を含む「やんか」の方が相手に対する叱責・威圧感が強いように思われる。従って、第11表において、日本語の否定の文末部(８例)がすべて、やや強い表現であるイタリア語の否定の付加疑問と対応しているのは当然だと思われる。

さて、第11表における日本語の肯定の文末部(合計で45例)であるが、これらがイタリア語の付加疑問に翻訳される場合、ほぼ均等に肯定(22 例)と否定(23 例)とに振り分けられている。このことはどう考えたらよいのであろうか？筆者は、“イタリア語の vero?と no?との間の強調(即ち、叱責・威圧感) の度合いの差は、日本語の「やろ」と「やんか」との間の差ほど大きくはないのではあるまいか。だから、日本語の肯定の文末部に対して、vero?と no?のどちらでも

対応できるのではないだろうか？”と思うのである。

要するに、イタリア語の付加疑問が肯定の場合、日本語の文末部は「やろ」に代表される肯定のもので対応している[25]。一方、イタリア語の付加疑問が否定の場合には、２種類の可能性がある。即ち、叱責・威圧感を伴う強いものに対しては「やんか」に代表される否定の文末部で、そうでない場合には「やろ」に代表される肯定の文末部で対応している、ということである。この対応関係を第１２表のように図示すれば、事態は一層明確になるであろう。

第１２表

文末表現	弱← 念押しの度合い →強		
イタリア語の付加疑問	vero?	no?	
日本語の文末部	やろ		やんか

第3章　擬音語に関する考察

第1節　はじめに

「擬音語」とは「自然音を模倣することによって作られた語彙単位」のことである。時計の音を再現しようとするチクタク,ニワトリの鳴声をまねるコケコッコーなどがそれである。日本語は、一般に、擬音語を多用する言語であるとされ、擬音語辞典が出版されているような状況である。

さて、イタリア語はどうであろうか？ミリオリーニは、イタリア語の擬音語の用例として、“タイプライターのキーを打つ行為を指していう ticchettìo、管からゴボゴボ音をたてながら出て来る水の音をまねていう gloglottìo などがそれである” と指摘している [26]。このほか、大きい物がぶつかったり、壊れたりするガシャンという音を表わす patatràc のような珍しい擬音語も存在する。しかし、イタリア語は、一般に、擬音語をあまり用いない言語であるように思われる。もちろん、擬音語辞典の類は出版されてはいない。

日本語における擬音語の使用頻度を100とした場合、イタリア語はいったいどれくらいの数値になるのであろうか。この疑問の解決が本章の目的である。 そこで、擬音語の頻出する日本文学作品2種（吉本ばなな『キッチン』と夏目漱石『草枕』）とそれぞれのイタリア語訳を資料として考察を進めたいと思う。

なお、日本語には、にこにこ、そわそわ、すべすべ、などのように、実際には音を伴わないのに、あたかも音を発しているかのように、人や事物の状態を描写する「擬態語」が存在するのであるが、これらは本章では取り扱わないこととする。

大坪併治氏は、擬音語の構造を次のように設定しておられる。(用例は古浦が一部変更した)

第１３表

型			用例
単一型			かーん、どさっ、ぽきん
複合型	反復型	単純反復型	かさかさ、ぎしぎし、ちちち
		修正反復型	かさこそ、がたごと
	合成型		がたぴし、とんかたん

要するに、擬音語を構成する要素が一種類の場合（たとえば、かさ）は「単一型」、同じ構成要素が反復される場合（たとえば、かさ－かさ）は「単純反復型」、また、構成要素が反復される際、二つ目の構成要素が一つ目のものの部分修正である場合（たとえば、かさ－こそ）は「修正反復型」、そして、構成要素が二種類の場合（たとえば、とん－かたん）は「合成型」、ということになる。イタリア語に関しても、構成する要素が一種類の場合（たとえば、ronzio「ブンブンいう音」）は「単一型」、（たとえば、tin という）同じ構成要素が反復されている場合（たとえば、tin-tin-nio「チリンチリンと鳴る音」）は「単純反復型」、そして、鐘の音を表わす din-don は

「修正反復型」ということになる。次節以降の記述・分析には、これらの型による分類法を導入することとする。

なお、擬音語であるか否かの判断基準であるが、伊々辞典ズィンガレッリ(*Il Nuovo Zingarelli* (*Vocabolario della lingua italiana* di Nicola Zingarelli, 1983, Zanichelli))の語源欄の記述を利用した。その際、語源欄に「vc. onomat.?」として、擬音語であるか否かが疑わしいとされている場合は、【非擬音語要素】とすることとした。また、対応する擬音語要素が欠落している場合は、【φ】とすることとした。

第2節 吉本ばなな『キッチン』原文に現われる擬音語とそのイタリア語訳

(擬音語を含む対応箇所には下線をほどこすこととする。用例末のカッコ内の数字は出現ページ数である。aは日本語原文、bは伊訳。)

(1a) 冷蔵庫のぶーんという音が、私を孤独な思考から守った(9)【単一型】

(1b) …col ronzio del frigorifero che mi proteggiava da pensieri di solitudine.(10)【単一型】

(2a) ピンポンとふいにドアチャイムが鳴った。(10)【修正反復型】

(2b) Din-don. All'improvviso suonò il campanello.(11)【修正反復型】

(3a) (私は)ぬれて光る小路が虹色にうつる中を、ぱしゃぱしゃ歩いていった。(14)【単純反復型】

(3b) Camminavo attraverso i riflessi iridescenti che emanavano dal vialetto bagnato e luccicante.(13)【φ】

(4a) そうして、ドアがガチャガチャと開いて、ものすごい美人が息せききって走りこんできたのは、その時だった。(18)【単純反復型】

(4b) In quel momento si sentì il rumore della porta che si apriva e una donna di una bellezza incredibile entrò di corsa, un'po ansimante.(15)【φ】

(5a) 彼女ははあはあ息をつきながら少しかすれた声で、「はじめまして」と笑った。(19)【単純反復型】

(5b) "Piacere," disse lei con un sorriso, la voce un po' roca ancora affannata.(16)【非擬音語要素】

(6a) 車のキーをガチャガチャならしながら雄一は戻って来た。(21)【単純反復型】

(6b) Yuichi ritornò, facendo dondolare le chiavi dell'auto.(17)【非擬音語要素】

(7a) ぺたぺたとはだしで台所をもう1回見に行く。(27)【単純反復型】

(7b) A piedi scalzi andai a dare un'ultima occhiata alla cucina. (19)【φ】

(8a) くすくすお母さんは笑った。(31)【単純反復型】

(8b) …concluse la madre ridendo.(22)【φ】

(9a) 彼女はきゅうりをぽりぽり食べながら言った。(32)【単純反復型】

(9b) Mentre mangiava con gusto i cetrioli disse…(22)【非擬音語要素】

(10a) ガラスばりのその窓の外は、いちめんの曇り空に風でわさわさゆれる木々が見えた。(38)【単純反復型】

(10b) Dietro la finestra dai vetri colorati si vedevano gli alberi agitati dal vento contro il cielo ricoperto di nuvole.(26)【非擬音語要素】

(11a) 外は春の嵐のような、あたたかい風がごうごう吹いていた。(46)【単純反復型】

(11b) Fuori un vento caldo soffiava, come in una tempesta di primavera.(29)【φ】

(12a) ぎいっと音をたててドアが開いて大きな紙袋を抱えたえり子さんが入ってきた(49)【単一型】

(12b) Il rumore della porta che si apriva e apparve Eriko con un gran pacco.(31)【非擬音語要素】

(13a) 自分の荷物にはさまれて、暗がりでかがんで、もうわんわん泣いた。(57)【単純反復型】

(13b) Posai a terra le borse, mi accovacciai nel buio e finalmente scoppiai a singhiozzare.(35)【非擬音語要素】

(14a) カギをちゃりちゃり言わせながら星空の下を歩いていたら、涙があとからあとからあふれはじめた。(77)【単純反復型】

(14b) Camminavo sotto il cielo stellato, le chiavi che tintinnavano a ogni passo,e le lacrime cominciarono a scorrere inarrestabili.(47)【単純反復型】

(15a) (自分のエネルギーが)しゅうしゅう音をたてて、闇に消えてゆく。(78)【単純反復型】

(15b) Si perdeva nell'oscurità con un sibilo.(48)【非擬音語要素】

(16a) (私は)はあはあ息をついていた。(79)【単純反復型】

(16b) Ero ansimante.(48)【非擬音語要素】

(17a) ふきんを全部洗ってさらし、乾燥機にかけてごうんごうんと回っているのを見ているうちに…(90)【単純反復型】

(17b) Lavai tutti gli strofinacci con la varechina, poi li misi nell'asciugatrice, e mentre li guardavo ruotare senza interruzione…(55)【非擬音語要素】

(18a) 「信じらんないよな。」と雄一が言った。袋をどさりと置く。(94)【単一型】

(18b) "Incredibile," disse Yuichi, posando il sacco a terra con un tonfo. (58)【単一型】

(19a) チン、とエレベーターが止まり、私の心が瞬間、真空になった。(96)【単一型】

(19b) Quando l'ascensore si fermò, per un secondo mi si arrestò il cuore.(59)【φ】

(20a) 彼はソファーにあおむけになったまま、セロリをぽりぽり食べながら、うん、と言った。(99)【単純反復型】

(20b) Yuichi, sdraiato sul divano, assentì continuando a mangiucchiare un pezzo di sedano.(60)【非擬音語要素】

(21a) 帰ってばたんと寝ると…(100)【単一型】

(21b) Tornato a casa mi addormentavo di botto… (61)【非擬音語要素】

(22a) しっかり目ざましをかけておいたのがジリジリうるさいなあ…と手をのばしたらそれは電話だった。(104)【単純反復型】

(22b) Sentendo un trillo insistente allungai la mano infastidita, ma era il telefono. (63)【単一型】

(23a) するとガチャン！(105)【単一型】

(23b) Ci fu un clic:(63)【単一型】

(24a) 雄一を見たら、まだグーグー寝ている。(105)【単純反復型】

(24b) Mi girai a guardare Yuichi che dormiva ancora pesantemente.(64)【非擬音語要素】

(25a) ２人が白いエプロンで光の中、くすくす笑っている様子は、涙が出るほど幸福ながめに思える。(109)【単純反復型】

(25b) Loro due che ridevano con i grembiuli bianchi in mezzo alla luce erano una tale visione di felicità da farmi venire le lacrime agli occhi.(65～66)【φ】

(26a) (彼女は)コツコツ音をたててドアへ歩いていった。(115)【単純反復型】

(26b) si avviò alla porta con un forte rumore di tacchi.(69)【非擬音語要素】

(27a) そして、(彼女は)ばーん、とドアをすごい音で閉めて、出ていった。(115～116)【単一型】

(27b) Poi uscì sbattendo fragorosamente la porta.(69)【非擬音語要素】

(28a) あたたかい車内に、突然凍った風がぴゅうと吹き込む。(123)【単一型】

(28b) Di colpo nella macchina calda penetrò un vento gelido.(73)【φ】

(29a) 店のおばさんが忙しそうにやってきて、どっかんと水を置いた。(131)【単一型】

(29b) La padrona del ristorante, che era molto indaffarata, con fare brusco mi piazzò davanti un bicchiere d'acqua.(77)【非擬音語要素】

(30a) 高くから細い滝がざあざあ音をたてて、こけむした岩へと落ちていた(149～150)【単純反復型】

(30b) Dall'alto una sottile cascata cadeva con un suono scrosciante su una roccia ricoperta di muschio…(88)【単一型】

(31a) ずずっと音がして、熱い痛みが右の腕に走った。(151)【単一型】

(31b) Si sentì un bang e un dolore acutissimo mi attraversò il braccio destro.(89)【単

一型】

(32a) (雄一は)あわてて窓をがらがら開けた。(153)【単純反復型】

(32b) Solo allora, confuso, aprì rumorosamente la finestra.(90)【非擬音語要素】

(33a) 廊下をぱたぱた走るスリッパの音や、旅館の人の声で,はっ,と目覚めたら(160)【単純反復型】

(33b) Mi svegliò un rumore di pantofole che andavano su e giù per il corridoio e le voci del personale dell'albergo.(94)【非擬音語要素】

(34a) いつもちりちりとかすかな澄んだ音が聞こえた。(168)【単純反復型】

(34b) udivamo quel tintinnio fievole e argentino.(100)【単純反復型】

(35a) ざあざあと力強く川音が響き…(174)【単純反復型】

(35b) Il fiume scorreva con un suono fragoroso…(103)【非擬音語要素】

(36a) 彼女がふふ、と笑うのがわかった。(192)【単純反復型】

(36b) Mi accorsi che rideva.(113)【φ】

(37a) 夜の中を、ちりちりと鈴の音が遠ざかっていった。(200)【単純反復型】

(37b) Il suono del campanello si allontanava tintinnando nella sera.(118)【単純反復型】

(38a) 木々が、風にざわざわとゆれるシルエットが淡くうつる。(216)【単純反復型】

(38b) Le silhouette degli alberi che oscillavano al vento con un fruscio erano appena distinguibili.(127)【単一型】

(39a) 川音だけがごうごう響く…(217)【単純反復型】

(39b) Si sentiva solo il fragore dell'acqua.(128)【非擬音語要素】

(40a) 風で窓ががたがたゆれる。(222)【単純反復型】

(40b) Il vetro della finestra vibrava forte al vento.(131)【非擬音語要素】

(41a) しーって言って人さし指をたてて、笑った。(224)【単一型】

(41b) Allora lei si è messa un dito sulle labbra e ha fatto 'Shh…' sorridendo.(132)【単一型】

第3節 データの分析（その1）

日本語原文『キッチン』に現われる擬音語は全体で 41 例であった。その内訳としては、単一型11例、単純反復型29例、修正反復型1例、合成型ゼロであった。本節では、これらの用例が伊語訳においてどのような型で対応しているか？、あるいは、非擬音語要素で対応しているか？あるいは、全く無視されているか？という観点から分析を進めていきたいと思う。

章末の第１４表によれば、“日本語原文が単一型擬音語である場合、単一型擬音語で対応している用例はイタリア語訳では５例であった。また、日本語原文が複合型擬音語のうち単純反復型

擬音語である場合、単一型擬音語で対応している用例はイタリア語訳では３例であった”などのことが分かる。第１４表の結果をまとめると、以下のようになるであろう。

①日本語原文の擬音語 41 例に対して、イタリア語訳が擬音語で対応している用例は 12 例であって、全体的に言えば、12/41＝約29%である。

②日本語原文の単一型擬音語に対して擬音語で対応させる場合、イタリア語訳でも単一型で対応させる傾向が見られる。

第４節 夏目漱石『草枕』に現われる擬音語とそのイタリア語訳

(１a) (鶏が) ククク、クククと騒ぎ出す。(17)【単純反復型】

(１b) Kukuku, kukuku, incominciano a starnazzare.(21)【単純反復型】[27]

(２a) 雄が太い声でこけっこっこと云うと…(18)【単一型】

(２b) Il maschio canta un possente kokekkokko…(22)【単一型】

(３a) 雌が細い声でけけっこっこと云う。(18)【単一型】

(３b) la gallina un flebile kekekkokko.(22)【単一型】

(４a) こゝゝゝと馳け出した夫婦は、 … 往来へ飛び出す。(19)【単純反復型】

(４b) La coppia di pennuti svolazza starnazzando e … vola in strada.(23)【非擬音語要素】

(５a) 折りから、竈のうちが、ぱちぱちと鳴って…(20)【単純反復型】

(５b) Proprio in quest'istante la legna crepita nel focolare…(24)【単一型】

(６a) 落ち付いた耳の底へじゃらんじゃらんと云う馬の鈴が聴え出した。(22)【単純反復型】

(６b) penetra nelle mie orecchie il tintinnio dei sonagli di un cavallo.(27)【単純反復型】

(７a) 草山の向うはすぐ大海原でどどんどどんと大きな涛が人の世を威嚇しに来る。(29)【単純反復型】

(７b) Subito al di là di essa si stendeva l'oceano, con immense onde fragorose che parevano minacciare il mondo umano.(37)【非擬音語要素】

(８a) ほーう、ほけきょうと忘れかけた鶯が、…、時ならぬ高音を不意に張った。(52)【単一型】

(８b) All'improvviso l'usignolo che avevamo dimenticato, …, lancia un acutissimo, inatteso ho…hokekyo.(67)【単一型】

(９a) (鶯が)ほーう、ほけきょーう。ほーー、ほけっーきょうーと、つづけ様に囀る。(52)【修正反復型】

(９b) (l'usignolo) cinguetta incessantemente ho…hokekyo, ho…hokekyo. (67)【単純反復

型】

(10a) (髪剃が)頬にあたる時はがりりと音がした。(55)【単一型】

(10b) Sento che mi sta raschiando la guancia.(72)【非擬音語要素】

(11a) 揉み上の所ではぞきりと動脈が鳴った。(55)【単一型】

(11b) Quando risale verso la tempia le vene mi pulsano freneticamente.(72)【非擬音語要素】

(12a) 顎のあたりに利刃がひらめく時分にはごりごり、ごりごりと…怪しい声が出た。(55)【単純反復型】

(12b) Quando la lama tagliente mi brilla vicino al mento odo un crepitio…(72)【非擬音語要素】

(13a) かちゃりと、小刀があたる度に、赤い味が笊のなかに隠れる。(61)【単一型】

(13b) Zac, zac, la lama del coltello sfiorava la conchiglia e la rossa polpa cadeva nel cesto.(77)【単純反復型】

(14a) ホゝゝゝと鋭どく笑う女の声が、廊下に響いて…(83)【単純反復型】

(14b) L'acuta risata della donna riecheggia nel corridoio…(109)【非擬音語要素】

(15a) 縁を越す湯泉の音がさあさあと鳴る。(83)【単純反復型】

(15b) L'acqua termale oltrepassa i bordi con uno sciacqio sommesso.(109)【非擬音語要素】

(16a) キキーと鋭どい羽搏をして一羽の雉子が薮の中から飛び出す。(101)【単一型】

(16b) Un fagiano vola dal boschetto di bambù scuotendo le ali e lanciando acuti kii-kii.(131)【単純反復型】

(17a) 袂から烟草を出して、寸燐をシュッと擦る。(106)【単一型】

(17b) Tolgo un pacchetto di sigarette dalla manica del kimono e sfrego un fiammifero.(137)【φ】

(18a) ぶくぶくと泡が二つ浮いて、すぐ消えた。(107)【単純反復型】

(18b) Appaiono due cerchi schiumosi e subito dileguano.(138)【φ】

(19a) ぽかんと幽かに音がした。(107)【単一型】

(19b) Percepisco appena un tonfo attutito.(138)【単一型】

(20a) 見ていると、ぽたり赤い奴(=椿の花)が水の上に落ちた。(108)【単一型】

(20b) Mentre le contemplo, una rossa corolla cade sull'acqua.(139)【φ】

(21a) がさりがさりと足音がする。(109)【単純反復型】

(21b) Sento un fruscio di passi.(141)【単一型】

(22a) 鳩の声がくううくううと聞える。(119)【単純反復型】

(22b) Mi rispondono i kuuu, kuuu dei piccioni.(153)【単純反復型】

(23a) 鳩がくううくううと鳴く。(125)【単純反復型】

(23b) Kuuu, kuuu, tubano i piccioni.(157)【単純反復型】

(24a) かちりと音がして、閃めきはすぐ消えた。(128)【単一型】

(24b) poi un suono metallico e il bagliore subito svanisce.(162)【非擬音語要素】

(25a) やがて、裏の納屋の方で、鶏が大きな声を出して、こけこっこうううと鳴く。(140)【単一型】

(25b) Poco dopo nel granaio dietro alla casa una gallina lancia un acuto kokekokkoo.(176)【単一型】

(26a) 時によると白い家鴨を出す。家鴨はがあがあと鳴いて川の中迄出て来る。(144)【単純反復型】

(26b) Di tanto in tanto si vedono bianche anatre, che, schiamazzando, scendono fino al fiume.(182)【非擬音語要素】

(27a) とんかたんと機を織る音が聞える。(144)【合成型】

(27b) Si odono dei battiti di telai, ton ka tan…(182)【合成型】

(28a) 女の唄が、はああい、いようう・・と水の上迄響く。(144)【合成型】

(28b) Si odono…una voce di donna che intona un haai, iyouu, che riecheggia fin sull'acqua.(182)【合成型】

(29a) 家鴨ががあがあ鳴く。(146)【単純反復型】

(29b) Le anatre schiamazzano.(184)【非擬音語要素】

(30a) じゃらんじゃらんと号鈴が鳴る。(148)【単純反復型】

(30b) Suona un campanello.(187)【φ】

(31a) 空では大きな音がどどんどどんと云う。(149)【単純反復型】

(31b) Nel cielo rimbombano fragorosi boati.(187)【単一型】

(32a) 車掌が、ぴしゃりぴしゃりと戸を閉てながら、こちらへ走って来る。(149)【単純反復型】

(32b) Il controllore corre verso di noi chiudendo bruscamente gli sportelli.(188)【非擬音語要素】

(33a) 未練のない鉄車の音がごっとりごっとりと調子を取って動き出す。(149)【単純反復型】

(33b) l'indifferente treno incomincia a muoversi, riprende sbuffando il suo ritmo.(188)【φ】

(34a) 鉄車はごとりごとりと運転する。(149)【単純反復型】

(34b) Le ruote di ferro girano rumorosamente.(188)【非擬音語要素】

第5節　データの分析（その2）

日本語原文『草枕』に現われる擬音語は全体で34例であった。その内訳としては、単一型13例、単純反復型18例、修正反復型1例、合成型2例であった。本節では第3節で行なった分析と同じ手法で論を進めていきたいと思う。

章末の第15表によれば、“日本語原文が単一型擬音語である場合、単一型擬音語で対応している用例はイタリア語訳では5例であった。また、日本語原文が複合型擬音語のうち単純反復型擬音語である場合、単一型擬音語で対応している用例は、イタリア語訳では3例であった”などのことが分かる。なお、『キッチン』の場合と異なり、『草枕』では合成型擬音語の用例が少々見つかった。

第15表の結果をまとめると、次のようになるであろう。

①日本語原文の擬音語34例に対して、イタリア語訳が擬音語で対応している用例は17例であって、全体的に言えば、17/34＝約50%である。

②日本語原文の単一型擬音語に対して擬音語で対応させる場合、イタリア語では単一型で対応させる傾向が感じられる（単一型：複合型＝5：2）。

③日本語原文の複合型擬音語に対して擬音語で対応させる場合、イタリア語では複合型で対応させる傾向が感じられる（単一型：複合型＝3：7）。

④上記の結果②と結果③により、イタリア語は臨機応変に単一型と複合型を使い分けているように思われる。

第6節　まとめ

本章では、現代作家の吉本ばななと明治の文豪夏目漱石という時代差・男女差をも考慮に入れたテキスト選択の許での調査であった。テキストによる差や訳者による違いもあろうかと思われる。が、それはそれとして、第3節と第5節の分析結果を総合すると結論として次の事実が抽出できそうである。

①イタリア語における擬音語の使用頻度は、日本語を100%とすれば、30%から50%程度であり、さほど高いものではない。（今回の調査では、『キッチン』での擬音語対応例は29%。『草枕』での擬音語対応例は50%。）

②イタリア語は、日本語原文が単一型擬音語の場合には単一型擬音語で、日本語原文が複合型擬音語の場合には複合型擬音語で、対応させようとする傾向が見られる。（今回の調査では、『キッチン』における単一型：複合型の使用比率は、原文が単一型の場合5：0、原文が複合型の場合3：4。『草枕』における単一型：複合型の使用比率は、原文が単一型の場合5：2、原文が複合型の場合3：7。）

第３章で使用したテキスト

吉本ばなな『キッチン』1990、福武書店

Banana Yoshimoto : *Kitchen*, traduzione e postfazione di Giorgio Amitrano, 1991, Feltrinelli, Milano

夏目漱石『草枕』1974、講談社文庫

Soseki Natsume : *Guanciale d'erba*, traduzione di Lydia Origlia, 1983, Editoriale Nuova, Milano

第１４表

日本語原文		用例数	対応／非対応		伊語訳
単一型		１１	単一型		5
			複合型	単純反復型	0
				修正反復型	0
				合成型	0
			非対応	非擬音語要素	4
				ϕ	2
複合型	単純反復型	２９	単一型		3
			複合型	単純反復型	3
				修正反復型	0
				合成型	0
			非対応	非擬音語要素	１６
				ϕ	7
	修正反復型	1	単一型		0
			複合型	単純反復型	0
				修正反復型	1
				合成型	0
			非対応	非擬音語要素	0
				ϕ	0
	合成型	0	単一型		0
			複合型	単純反復型	0
				修正反復型	0
				合成型	0
			非対応	非擬音語要素	0
				ϕ	0
計					４１

第15表

日本語原文		用例数	対応／非対応		伊語訳
単一型		13	単一型		5
			複合型	単純反復型	2
				修正反復型	0
				合成型	0
			非対応	非擬音語要素	4
				ϕ	2
複合型	単純反復型	18	単一型		3
			複合型	単純反復型	4
				修正反復型	0
				合成型	0
			非対応	非擬音語要素	8
				ϕ	3
	修正反復型	1	単一型		0
			複合型	単純反復型	1
				修正反復型	0
				合成型	0
			非対応	非擬音語要素	0
				ϕ	0
	合成型	2	単一型		0
			複合型	単純反復型	0
				修正反復型	0
				合成型	2
			非対応	非擬音語要素	0
				ϕ	0
計					34

第４章　否定接頭辞に関する考察

第１節　はじめに

理論言語学の入門書John Lyons:*Introduction to Theoretical Linguistics*,1968,Cambridgeを、その邦訳・伊訳と対照させつつ読み進んでいるうち、次の箇所に遭遇した。

(例 1)We can also say, if we wish, that some speaker of a regional dialect of English has produced an incorrect or ungrammatical form (p.42)

(例 2)the permutation of the two nouns or noun-phrases will have the effect of rendering the sentence ungrammatical or converting it into a different sentence(p.77)

(例 3)possiamo anche dire, se vogliamo, che un parlante di un dialetto regionale ha usato una forma scorretta o sgrammaticata(p.53)

(例 4)la permutazione dei due nomi o dei due sintagmi nominali avrà l'effetto di rendere la frase non grammaticale o di cambiarla in una frase diversa (p.97)

(例 5)更にまた、地域方言の話者が正しくない非文法的な言い方をしたと、言いたければ、言ってもよかろう。(p.46)

(例 6)二つの名詞あるいは名詞句の置換は、文を非文法的にするか、あるいは文を異なった文に転化する結果になろう。(p.82)

(例 1)(例 2)は英語原文、(例 3)(例 4)は伊訳、(例 5)(例 6)は邦訳であるが、(例 1)は(例 3) (例 5)と、(例 2)は(例 4) (例 6)とそれぞれ対応している。

さて、(例５)(例６)の邦訳はともに「非文法的」と、否定接頭辞は「非－」が使用されているのに、(例３)(例４)の伊訳では、否定接頭辞は「s－」であったり、「non－」であったりしている。

日本語の否定接頭辞には「非－」のほかにも「不－」と「無－」が存在する。一方、イタリア語にも、「s－」「non－」のほかに「a－」と「in－」が存在する。これらの否定接頭辞はどのように対応しているのであろうか。そこで、ともに邦訳と伊訳のある言語学書・推理小説、また、日本文学作品の原文とその伊訳、さらに、イタリア文学作品の原文と邦訳を資料として、否定接頭辞を含む箇所を可能な限り抽出し、比較・対照してみたいと思う。

第２節　先行研究

長嶋善郎氏は、國廣哲彌編『日英語比較講座』第１巻「音声と形態」1980 の第５章「語構成の比較」の中で、次の諸点を指摘しておられる。“「不－」「非－」「無－」には、英語の un-,in-(il-,ir-,im-)がほぼ対応する(p.259)”。“日本語には、un-,in-,non-,dis-等に対応する一定の接頭辞はないが、「不－」「非－」「無－」が付く場合が多いことが分かる。日本語のこれらの接頭辞は造語力が高く、一般に漢語と結合するが、「不－入り」「不－揃い」「不－確か」「不－釣り合い」

「不ー手際」「不ー届き」「不ーまじめ」「不ー向き」「無ー届け」等、「不ー」「無ー」は、和語とも結合し得る。これに対し、「非ー」は漢語としか結合しない。これと同じような違いが、英語の un-と in-についても指摘できる。un-は、極めて造語力の高い接頭辞で、ゲルマン系の語基にも、また、ラテン・フランス系の語基にも付き得るのに対し、in-は、一般に、ラテン・フランス系の学識語に付く。日本語の「不ー」「非ー」は、いずれも語基に「否定」の意味を加えるが、「非ー」の方は、一般に、その派生語がもとの語基の意味と全く無関係であることを示すと言えよう。同様の区別は、英語の un-(in-)と non-についても見られる。non-は語基の形容詞についてその度合を問題にするのではなく、ある性質を持つか持たないかの二分法の一方の極を示す(pp.261-262)"。

次に、野村雅昭氏は、「否定の接頭語「無・不・未・非」の用法」(『国立国語研究所論集』第4集、1973、pp.31-50) と題する論文の中で、"「非公式」という言い方があるのに「＊不公式」という言い方がないのに対して、「非合理な制度を改める」の「非合理」を「不合理」に置き換えても、それほど不自然ではないのはなぜか" という問題の解決を目指しておられる。これは、現代雑誌９０種と昭和４１年に発行された三種類の新聞から資料を収集するという大々的な調査である。

野村氏の分析方法には注目すべきことが多い。たとえば、①「非宗教法人」という語は、「宗教法人でない法人」という実態概念を表わし、「宗教法人でないこと」や「宗教法人でない様子」と言う属性概念を第一義的に表すことはできない。②「無」・「不」・「未」が冠せられる熟語では大部分が二字熟語であるのに対して、「非」が冠せられる熟語では二字以上の結合形が半数以上を占めている。③語形成の視点からすれば、「非合法政権」の場合は、「非合法」と「政権」とが結合していて、「非」と「合法政権」とが結合しているのではない。それに対して、「非共産主義」の場合は、「非」と「共産主義」とが結合していて、「非共産」と「主義」とが結合しているのではない。④「無許可」「不支持」の場合は、否定接頭辞を除去した残りの要素（すなわち、語幹）の「許可」「支持」に「スル」を付して「許可する」「支持する」のようなサ変動詞が派生できる。他方、「無国籍」「不道徳」の場合は、「＊国籍する」「＊道徳する」のようなサ変動詞の派生ができない。など。

野村氏の上掲論文には如上の４項目のようなユニークな視点が含まれてはいるが、これらのうちのいずれも否定接頭辞の用法を左右する決定的な要因とはなっていないようである。

イタリア語の接頭辞は、ダルダノ＆トゥリフォーネ『イタリア語』1985 によれば、（Ｉ）名詞・形容詞に付される接頭辞、（II）動詞に付される接頭辞、に二分されている。そして、（Ｉ）は①前置詞・副詞に由来する接頭辞、②強調の接頭辞、③否定の接頭辞、に下位区分され、（II）は①強調の接頭辞、②反復・否定・対立を表わすアスペクト・様態の接頭辞、に下位区分されている。これらの記述のうち、否定接頭辞と関わりのある部分のみをピックアップして箇条書き

にしてみると、以下のようになる。

(1)in-の付いた形容詞（たとえば impossibile「不可能な」）を名詞化させることは容易である(impossibilità「不可能」)が、形容詞に由来しない名詞（たとえば successo「成功」）に in-が付けられるケース(insuccesso「不成功」)は稀である。

(2)s-の付いた形容詞（たとえば scontento「不満な」）を名詞化させることは容易である(scontentezza「不満」)が、形容詞に由来しない名詞（たとえば proporzione「均衡」）に s-が付けられるケース(sproporzione「不均衡」)は稀である。

(3)dis-の付いた形容詞（たとえば disattento「不注意な」）を名詞化させることは容易である(disattenzione「不注意」)。

(4)senza-と a-(an-)は同じものとして、ひとまとめになっている。a-は後続の語基が母音で始まる場合は an-となる。

(5)non-は現代語において生産的である。これは後続の語基に密着する場合もあれば、切り離される場合もしばしばである。たとえば、nonsenso「無意味」, non intervento「不介入」。

(6)動詞の否定接頭辞として、de-,di-,dis-,s-が存在する。たとえば、colorare「着色する」→decolorare「脱色する」、sperare「希望する」→ disperare「絶望する」、armare 「武装させる」→ disarmare「武装解除させる」、 montare「乗る」→ smontare「下車する」。

ダルダノ＆トゥリフォーネの上掲記述によれば、否定接頭辞の種類とともに、後続の語基が名詞なのか、形容詞なのか、動詞なのかが問題となっている。日本語では、こういった品詞分類は必ずしも判然としない場合が多いし、また、たとえば「不安定な」という形容詞から「不安定性」という名詞が派生できるか否かということは、本章のテーマとは直結しないので、品詞と派生に関しては扱わないこととする。

さて、否定接頭辞に関する日伊両言語間の対照研究は、目下のところ皆無である。そこで、イタリア語の否定接頭辞のうち、使用頻度の高い in-,dis-(語頭音が消失した s-も含める),a-,non-を、日本語の否定接頭辞「不－」「非－」「無－」と比較・対照してみよう。

第３節　用例一覧

以下、１２種の対応関係を想定して、順次用例を提示していこう。なお、使用テキストとその略号に関しては章末を参照のこと。

①日本語の「非－」がイタリア語の「a－」と対応している場合【計３例】

非円唇(Lyons 邦訳,136)	aprocheilo(Lyons 伊訳,163)
非対称(Lyons 邦訳,506)	asimmetrico(Lyons 伊訳,602)
非同形態性(Lyons 邦訳,508)	anisomorfismo(Lyons 伊訳,604)

②日本語の「非－」がイタリア語の「(di)s－」と対応している場合【計２例】

非文法的(Lyons 邦訳,46)　sgrammaticato(Lyons 伊訳,53)
非連続的(Chomsky 邦訳,62)　discontinuo(Chomsky 伊訳,111)

③日本語の「非－」がイタリア語の「in－」と対応している場合【計９例】

非形式的(Lyons 邦訳,146)　informale(Lyons 伊訳,176)
非決定(Lyons 邦訳,317)　indeterminato(Lyons 伊訳,376)
非現実的(Lyons 邦訳,457)　irreale(Lyons 伊訳,541)
非固有(Lyons 邦訳,254)　improprio(Lyons 伊訳,303)
非適格性(Chomsky 邦訳,22)　inadeguatezza(Chomsky 伊訳,49)
非人称的(Lyons 邦訳,423)　impersonale(Lyons 伊訳,501)
非能率的(Lyons 邦訳,93)　inefficiente(Lyons 伊訳,111)
非有生(Lyons 邦訳,310)　inanimato(Lyons 伊訳,368)
非両立(Lyons 邦訳,503)　incompatibilità (Lyons 伊訳,597)

④日本語の「非－」がイタリア語の「non－」と対応している場合【計４４例】

非意味的(Lyons 邦訳,500)　non semantico(Lyons 伊訳,594)
非意味論的(Chomsky 邦訳,78)　non-semantico(Chomsky 伊訳,138)
非核(Chomsky 邦訳,48)　non nucleare(Chomsky 伊訳,91)
非過去(Lyons 邦訳,338)　non passato(Lyons 伊訳,400)
非機能的(Lyons 邦訳,130)　non funzionale(Lyons 伊訳,156)
非近接(Lyons 邦訳,338)　non prossimo(Lyons 伊訳,400)
非繰り返し的(Lyons 邦訳,257)　non ricorsivo(Lyons 伊訳,306)
非言語的(Lyons 邦訳,463)　non linguistico(Lyons 伊訳,548)
非現在(Lyons 邦訳,338)　non presente(Lyons 伊訳,400)
非行為者(Lyons 邦訳,396)　non agentivo(Lyons 伊訳,469)
非再帰形(Lyons 邦訳,221)　non riflessivo(Lyons 伊訳,265)
非時間的(Lyons 邦訳,385)　non temporale(Lyons 伊訳,456)
非実現(Lyons 邦訳,126)　non attualizzazione(Lyons 伊訳,151)
非指定的(Lyons 邦訳,422)　non specifico(Lyons 伊訳,500)
非女性(Lyons 邦訳,323)　non femminile(Lyons 伊訳,384)
非叙法的(Lyons 邦訳,339)　non modale(Lyons 伊訳,401)
非進行(Lyons 邦訳,350)　non progressivo(Lyons 伊訳,414)
非静態的(Lyons 邦訳,358)　non stativo(Lyons 伊訳,424)
非接着(Chomsky 邦訳,49)　non apposto(Chomsky 伊訳,93)
非線形的(Lyons 邦訳,228)　non lineare(Lyons 伊訳,273)

非選択的(Lyons 邦訳,537)	non paradigmatico(Lyons 伊訳,第２章の注)
非専門的(Lyons 邦訳,109)	non tecnico(Lyons 伊訳,130)
非中性(Lyons 邦訳,380)	non neutro(Lyons 伊訳,450)
非調和的(Lyons 邦訳,137)	non armonico(Lyons 伊訳,164)
非直感的(Chomsky 邦訳,43)	non intuitivo(Chomsky 伊訳,82)
非哲学的(Lyons 邦訳,457)	non filosofico(Lyons 伊訳,540)
非典型的(Lyons 邦訳,399)	non tipico(Lyons 伊訳,472)
非認識的(Lyons 邦訳,499)	non cognitivo(Lyons 伊訳,593)
非場所的(Lyons 邦訳,385)	non locativo(Lyons 伊訳,456)
非場面内指示的(Lyons 邦訳,305)	non deittico(Lyons 伊訳,363)
非鼻音化(Lyons 邦訳,111)	non nasalizzato(Lyons 伊訳,134)
非比較(Lyons 邦訳,516)	non comparativo(Lyons 伊訳,613)
非文(Lyons 邦訳,276)	non frase(Lyons 伊訳,328)
非文法的(Lyons 邦訳,82)	non grammaticale(Lyons 伊訳,97)
非文明的(Lyons 邦訳,48)	non civilizzato(Lyons 伊訳,56)
非平叙的(Lyons 邦訳,355)	non dichiarativo(Lyons 伊訳,419)
非変形的(Lyons 邦訳,270)	non trasformazionale(Lyons 伊訳,322)
非方向的(Lyons 邦訳,364)	non direzionale(Lyons 伊訳,431)
非未来(Lyons 邦訳,338)	non futuro(Lyons 伊訳,400)
非名詞(Lyons 邦訳,377)	non nome(Lyons 伊訳,445)
非有限(Chomsky 邦訳,13)	non-finito(Chomsky 伊訳,32)
非ヨーロッパ(Lyons 邦訳,22)	non europeo(Lyons 伊訳,24)
非連結的(Lyons 邦訳,226)	non concatenante(Lyons 伊訳,270)
非連続的(Lyons 邦訳,83)	non sequenziale(Lyons 伊訳,99)

⑤日本語の「不－」がイタリア語の「a－」と対応している場合【計０例】

用例なし。

⑥日本語の「不－」がイタリア語の「(di)s－」と対応している場合【計１０例】

不一致(Lyons 邦訳,163)	dissenso(Lyons 伊訳,197)
不運（Ariyoshi 原文,35）	sfortuna(Ariyoshi 伊訳,51)
不均衡(Oe 原文,47)	disarmonia(Oe 伊訳,29)
不均衡(Oe 原文,175-176)	sproporzionato(Oe 伊訳,106)
不信(Buzzati 邦訳,80)	sfiducia(Buzzati 原文,87)
不鮮明(Oe 原文,316)	sfuocato(Oe 伊訳,193)

不調和(Mishima 原文,26)	disarmonia(Mishima 伊訳,27)
不名誉(Ariyoshi 原文,22)	disonore(Ariyoshi 伊訳,37)
不連続(Lyons 邦訳,241)	discontinuo(Lyons 伊訳,288)
不愉快(Christie 邦訳,26)	spiacevole(Christie 伊訳,15)

⑦日本語の「不－」がイタリア語の「in－」と対応している場合【計３９例】

不安定(Buzzati 邦訳,143)	incerto(Buzzati 原文,144)
不可解(Oe 原文,173)	imperscrutabile(Oe 伊訳,104)
不確実(Chomsky 邦訳,9)	incertezza(Chomsky 伊訳,25)
不確定性(Lyons 邦訳,163)	indeterminatezza(Lyons 伊訳,196)
不可能(性)(Lyons 邦訳,39)	impossibilità (Lyons 伊訳,44)
不可能(Lyons 邦訳,50)	impossibile(Lyons 伊訳,58)
不可避(Buzzati 邦訳,240)	inevitabile(Buzzati 原文,223)
不完全(Lyons 邦訳,38)	imperfetto(Lyons 伊訳,43)
不完全(Lyons 邦訳,187)	incompleto(Lyons 伊訳,225)
不規則(Chomsky 邦訳,91)	irregolare(Chomsky 伊訳,159)
不規則性(Lyons 邦訳,9)	irregolarità (Lyons 伊訳,8)
不幸(Buzzati 邦訳,84)	infelice(Buzzati 原文,92)
不合理(Chomsky 邦訳,39)	irragionevole(Chomsky 伊訳,77)
不自然(Lyons 邦訳,149)	innaturalmente(Lyons 伊訳,180)
不自然(Christie 邦訳,264)	insolitamente(Christie 伊訳,176)
不躾(Ariyoshi 原文,19)	irragionevole(Ariyoshi 伊訳,35)
不十分(Lyons 邦訳,369)	insufficiente(Lyons 伊訳,437)
不十分(Chomsky 邦訳,22)	inadeguato(Chomsky 伊訳,49)
不準備(Oe 原文,200)	impreparato(Oe 伊訳,121)
不条理(Buzzati 邦訳,17)	illogico(Buzzati 原文,31)
不正確(Lyons 邦訳,31)	impreciso(Lyons 伊訳,35)
不注意(Christie 邦訳,104)	imprudenza(Christie 伊訳,69)
不注意(Christie 邦訳,247)	inavvertenza(Christie 伊訳,164)
不注意(Christie 邦訳,261)	involontariamente(Christie 伊訳,173)
不釣合(Buzzati 邦訳,184)	inadeguato(Buzzati 原文,178)
不定(Lyons 邦訳,303)	indefinito(Lyons 伊訳,361)
不適格(Chomsky 邦訳,22)	inadeguato(Chomsky 伊訳,49)
不適格(Ariyoshi 原文,19)	inadatto(Ariyoshi 伊訳,34)

不適切(Lyons 邦訳,390)　inappropriatezza(Lyons 伊訳,461)
不適切(Lyons 邦訳,174)　inadeguatezza(Lyons 伊訳,209)
不適当(Lyons 邦訳,506)　inappropriato(Lyons 伊訳,601)
不適当(Chomsky 邦訳,23)　inadeguatezza(Chomsky 伊訳,50)
不徹底(Chomsky 邦訳,22)　inadeguato(Chomsky 伊訳,50)
不動産(Buzzati 邦訳,277)　immobile(Buzzati 原文,253)
不特定(Oe 原文,321)　indistinto(Oe 伊訳,196)
不必要(Lyons 邦訳,140)　inutilmente(Lyons 伊訳,168)
不満足(Lyons 邦訳,235)　insoddisfacente(Lyons 伊訳,281)
不明確(Lyons 邦訳,195)　indeterminato(Lyons 伊訳,235)
不用意(Christie 邦訳,186)　improvvisamente(Christie 伊訳,124)

⑧日本語の「不－」がイタリア語の「non－」と対応している場合【計０例】
用例なし。

⑨日本語の「無－」がイタリア語の「a－」と対応している場合【計２例】
無定形(Lyons 邦訳,63)　amorfo(Lyons 伊訳,73)
無表情(Buzzati 邦訳,221)　atono(Buzzati 原文,208)

⑩日本語の「無－」がイタリア語の「(di)s－」と対応している場合【計６例】
無遠慮(Buzzati 邦訳,49)　sfrontato(Buzzati 原文,61)
無関心(Buzzati 邦訳,16)　disinteresse(Buzzati 原文,31)
無慈悲(Buzzati 邦訳,10)　spietato(Buzzati 原文,25)
無造作(Buzzati 邦訳,44)　disinvoltura(Buzzati 原文,44)
無頓着(Buzzati 邦訳,26)　disinvoltura(Buzzati 原文,40)
無防備(Buzzati 邦訳,83)　disarmato(Buzzati 原文,91)

⑪日本語の「無－」がイタリア語の「in－」と対応している場合【計２２例】
無意識(Lyons 邦訳,118)　inconsciamente(Lyons 伊訳,142)
無意識(Christie 邦訳,289)　inconscio(Christie 伊訳,192)
無意味(Lyons 邦訳,185)　inutile(Lyons 伊訳,223)
無意味(Oe 原文,8)　insignificante(Oe 伊訳,8)
無縁(Oe 原文,39)　inaspettato(Oe 伊訳,24)
無遠慮(Buzzati 邦訳,38)　impertinente(Buzzati 原文,50)
無遠慮(Buzzati 邦訳,79)　inverecondia(Buzzati 原文,87)
無関係(Lyons 邦訳,53)　irrilevante(Lyons 伊訳,62)
無関係(Lyons 邦訳,177)　indipendente(Lyons 伊訳,213)

無関心(Lyons 邦訳,379)	indifferente(Lyons 伊訳,449)
無傷(Buzzati 邦訳,19)	intatto(Buzzati 原文;34)
無作法(Christie 邦訳,182)	impertinente(Christie 伊訳,121)
無慈悲(Ariyoshi 原文,53)	impietoso(Ariyoshi 伊訳,70)
無邪気(Lyons 邦訳,448)	innocente(Lyons 伊訳,530)
無生物(Lyons 邦訳,313)	inanimato(Lyons 伊訳,372)
無抵抗(Oe 原文,16)	incapace(Oe 伊訳,12)
無頓着(Oe 原文,11)	indifferenza(Oe 伊訳,9)
無表情(Christie 邦訳,34)	impassibile(Christie 伊訳,21)
無表情(Christie 邦訳,37)	inespressivo(Christie 伊訳,23)
無表情(Christie 邦訳,112)	impenetrabile(Christie 伊訳,74)
無変化(Lyons 邦訳,201)	invariabile(Lyons 伊訳,242)
無力感(Buzzati 邦訳,156)	impotenza(Buzzati 原文,155)

⑫日本語の「無－」がイタリア語の「non－」と対応している場合【計８例】

無意味(Chomsky 邦訳,4)	nonsenso(Chomsky 伊訳,16)
無関係(Chomsky 邦訳,5)	non interrelato(Chomsky 伊訳,17)
無指定(Lyons 邦訳,409)	non specificato(Lyons 伊訳,485)
無順序(Lyons 邦訳,257)	non ordinato(Lyons 伊訳,306)
無条件(Lyons 邦訳,339)	non qualificato(Lyons 伊訳,401)
無頓着(Oe 原文,233)	non curante(Oe 伊訳,142)
無標識(Lyons 邦訳,358)	non marcato(Lyons 伊訳,423)
無摩擦(Lyons 邦訳,132)	non fricativo(Lyons 伊訳,159)

第４節　用例の分析

以上、用例が出揃ったところで、一覧表に集計してみよう。次ページの第 16 表を見られたい。第 16 表によれば、“日本語の否定接頭辞「非－」は、イタリア語の「a－」に対応する場合が 3 例、「(di)s－」に対応する場合が２例、「in－」に対応する場合が 9 例、「non－」に対応する場合が 44 例、であった” などのことが分かる。この表からは、およそ次のようなことが言えそうに思われる。

“日本語からイタリア語を見た場合、「非－」は「non－」に、「不－」は「in－」に、「無－」は「in－」に、それぞれ概ね対応している。一方、イタリア語から日本語を見た場合、「a－」は用例数が僅少で断言しにくいが、「(di)s－」は「不－」に、「in－」は「不－」または「無－」に、「non－」は「非－」に、それぞれ概ね対応している。”

第16表

伊＼日	a－	(di)s－	in－	non－	合　計
非－	3	2	9	44	58
不－	0	10	39	0	49
無－	2	6	22	8	38
合　計	5	18	70	52	145

さて、ここで、池田廉ほか編『伊和中辞典』第二版、1999 小学館を利用して、否定接頭辞を有する同じ一つのイタリア語の単語に対して、複数の否定接頭辞を有する日本語訳が現れるか否かについて検討してみた。すると、以下の20種の用例が見つかった。

①「a－」が「不－」と「非－」の両方に訳されている場合【計1例】

asimmetrico「不均衡の」「非対称の」

②「a－」が「無－」と「非－」の両方に訳されている場合【計1例】

amorfo「無定形の」「非晶質の」

③「(di)s－」が「不－」と「非－」の両方に訳されている場合【計1例】

discontinuo「不定期の」「非連続的」

④「in－」が「不－」と「非－」の両方に訳されている場合【計7例】

illogico「不条理の」「非論理的な」

improprio「不適切な、不正確な」「非固有の」

inadeguatezza「不適当、不十分」「非適格性」

incompatibilità「不一致、不適合」「非両立」

indeterminato「不確定の、不定の、不明確な」「非決定の、非限定の」

irragionevole「不合理な」「非理性的」

irregolare「不規則な」「非常識な」

⑤「in－」が「不－」と「無－」の両方に訳されている場合【計8例】

impenetrabile「不可解な」「無表情の」

impotenza「不能」「無力感」

imprudenza「不注意」「無分別」

inaspettato「不意の」「無縁の」

infelice「不幸な」「無能な」

inutilmente「不必要に」「無益に、無為に」

invariabile「不変の、不動の」「無変化の」

involontariamente「不注意に」「無意識に」

⑥「in－」が「非－」と「無－」の両方に訳されている場合【計2例】

inanimato「非有生」「無生物の、無機的」

inefficiente「非能率的」「無能な」

これらの用例の出現頻度をまとめたのが、次の第17表である。

第17表

接頭辞	「不」と「非」	「不」と「無」	「非」と「無」	計
a-	1	0	1	2
(di)s-	1	0	0	1
in-	7	8	2	17
non-	0	0	0	0
計	9	8	3	20

この表からは、同じin-を有するイタリア語の単語が「不」と「非」の両方に訳されたり、「不」と「無」の両方に訳されたりするケースが多いことが分かる。

第5節　まとめ

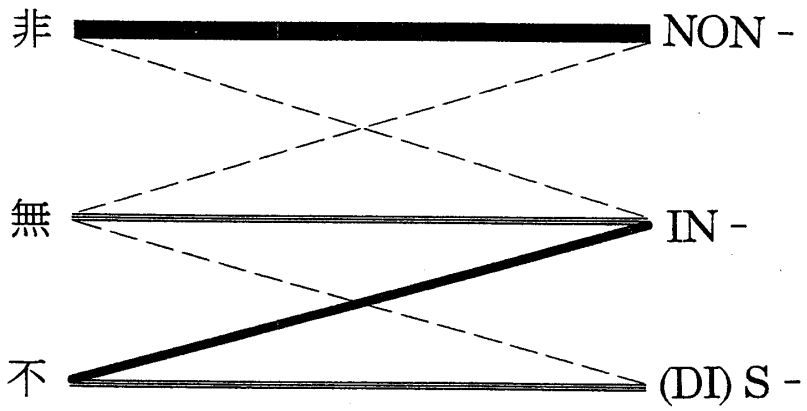
本章で明らかになったことを、最後に、箇条書きにしてまとめておこう。

①日本語からイタリア語を見た場合、「非-」は「non-」に、「不-」は「in-」に、「無-」は「in-」に、それぞれ概ね対応している。

②イタリア語から日本語を見た場合、「a-」は用例数が僅少で断言しにくいが、「(di)s-」は「不-」に、「in-」は「不-」または「無-」に、「non-」は「非-」に、それぞれ概ね対応している。

③否定接頭辞の日伊両言語での対応は必ずしも一対一の対応ではなく、特に in-の場合は、「不」と「非」の両方に訳されたり、「不」と「無」の両方に訳されたりするケースも多い。

このような対応関係を簡単に図示すると、以下のようになるであろう。黒い太線は「非常に頻繁な対応」を、黒い実線は「かなり頻繁な対応」を、三重線は「頻繁な対応」を、点線は「稀な対応」を、それぞれ示している。



第４章で使用したテキストとその略号

(Ariyoshi 原文) : 有吉佐和子『華岡青洲の妻』1978、新潮文庫、第 21 冊

(Ariyoshi 伊訳) : Sawako Ariyoshi : *Kae o due rivali*, con una prefazione di Paolo Pullega, traduzione Lydia Origlia, 1986, Jaka Book

(Buzzati 原文) : Dino Buzzati : *Un amore*, 1976, XIII ristampa, Oscar Mondadori(初版は 1963)

(Buzzati 邦訳) : ディーノ・ブッツァーティ,脇功&在里寛司共訳『ある愛』1969、河出書房新社

(Chomsky 伊訳) : Noam Chomsky : *Le strutture della sintassi*, traduzione note di Francesco Antinuzzi, terza edizione 1980, Universale Laterza

(Chomsky 邦訳) : チョムスキー著、勇康雄訳『文法の構造』1972、研究社

(Christi 伊訳) : Agatha Christie: *Assassinio sull'Orient Express*, traduzione di Alfredo Pitta, 1987, VI ristampa, Oscar Mondadori

(Christie 邦訳) : アガサ・クリスティ,古賀照一訳『オリエント急行殺人事件』第 19 版、1975 角川文庫

(Lyons 伊訳) : John Lyons : *Introduzione alla linguistica teorica*, traduzione di Elena Mannucci & Francesco Antinucci, vol. I (Il linguaggio), vol. II (La grammatica), vol. III (La semantica), seconda edizione, 1981, Universale Laterza, Roma-Bari

(Lyons 邦訳) : J.ライオンズ、國廣哲彌監訳『理論言語学』1973、大修館

(Mishima 原文) : 三島由紀夫『金閣寺』1971、新潮文庫、第 25 冊

(Mishima 伊訳) : Yukio Mishima : *Il padiglione d'oro*, traduzione dal giapponese di Mario Teti, 1986, Feltrinelli, Milano

(Oe 原文) : 大江健三郎『万延元年のフットボール』1988、講談社文芸文庫

(Oe 伊訳) : Kenzaburo Oe : *Il grido silenzioso*, traduzione dal giapponese di Nicoletta Spadovecchia, 1987, Garzanti

注

1） この卒業論文は、植田康成教授と今田良信助教授と筆者の三名の指導によるものである。

2） codesto のこと。

3） Battaglia,S.& Pernicone,V.: *La grammatica italiana*,1957,Torino, p.164。

4） De Felice,E.& Duro,A.: *Dizionario della lingua e della civiltà italiana contemporanea* 1976, Palumbo, p.432

5） Maria Grossmann: *Colori e lessico…studi sulla semantica degli aggettivi di colore in catalano, castigliano, italiano, romano, latino, ed ungherese*,1988, Tübingen

6） Enrico Arcaini: Universaux chromatiques et relativisme culturel…analyse contrastive :domaine français et italien (Centro di documentazione e di ricerca per la didattica della lingua francese nell'università italiana 『イタリアの大学におけるフランス語教育のための資料・研究センター紀要』) 1987, Roma, pp.5-85

7） 国立国語研究所編『分類語彙表』昭和 62 年、秀英出版

8） 壁に特有の色彩名は、建築業者たちによる命名であって、さほど古いものではない。

9） カナダ産木材の色。

10） 壁に特有の色彩名ではない。

11） 同じ表現の色でも、Idropaint のものはバーガンディー、Attiva は渋紙色というような差が生じている。

12） blu avio は blu aviazione と同じ色である。

13） carta da zucchero「砂糖を包む紙」なるものは、今日ではもはや使用されなくなった。

14） イタリア語では＊color bambù blu とはなっていないが、bambù はもともと「青竹」であるので、これを対応形であると考えることとする。

15） イタリア語では「山鳩の鼠色」という表現になっているが、実質的には「山鳩の羽の色のような鼠色」である。

16） テキストとしては、*Koto, ovvero i giovani amanti dell'antica città imperiale*, introduzione di Carlo Cassola, traduzione di Mario Teti, 1968, Milano を使用する。用例の末尾にはページ数を記すことにする。

17） テキストとしては、新潮文庫、平成元年 11 月 15 日出版、59 刷を使用する。用例にはページ数を記すことにする。

18） イタリア語訳中の付加疑問の箇所と、それに対応する日本語原文の箇所には、以下の用例においても下線を付すことにする。

19） 大塚高信・中島文雄監修『新英語学辞典』1982,研究社、p.1232

20) さらに、「肯定文に対しては否定の付加疑問で、否定文に対しては肯定の付加疑問で対応させる」という英語の一般的ルールも、イタリア語では通用しない。

21) Serianni,L.: *Grammatica italiana*『イタリア語文法』1988,Torino, pp.437-438

22) Marchese,A.: *Dizionario di retorica e di stilistica* 『修辞学・文体論辞典』1978,Milano,p.126 (筆者未見)

23) De Felice,E.& Duro,A.: *Dizionario della lingua e della civiltà italiana contemporanea*『現代イタリア語・文化辞典』1976, Palumbo, p.1310 & p.2172

24) *Dizionario Garzanti della lingua italiana*『ガルザンティ・イタリア語辞典』12a ed.,1974, p.1120

25) 念のため、vero? 以外の肯定の付加疑問(第10表参照)の用例に関しても調べてみたが、いずれも肯定の文末部と対応していた。

26) ミリオリーニ B.(1970) p.44

27) Kukuku,kukuku は日本語原文の擬音語をローマ字化しただけの表現であるから、イタリア語の擬音語とは言いがたい。したがって、この種のタイプの用例は別扱いにすべきなのかもしれない。

参考文献

(1)欧文文献（アルファベット順）

Arcaini, Enrico : Universaux chromatiques et relativisme culturel … analyse contrastive : domaine français et italien (Centro di documentazione e di ricerca per la didattica della lingua francese nell'università italiana) 1987, Roma, pp.5-85

Battaglia,S.& Pernicone,V.: *La grammatica italiana*,1957,Torino

Dardano,M. & Trifone,P.: *La lingua italiana*, 1985, Bologna

Grossmann, Maria: *Colori e lessico…studi sulla semantica degli aggettivi di colore in catalano, castigliano, italiano, romano, latino, ed ungherese*,1988, Tübingen

Koura,Toshio : Studio contrastivo dei vocaboli cromatici tra il giapponese e l'italiano con speciale riferimento ai due tipi "colore + nome" e "colore + aggettivo cromatico + nome" (*Studi italiani di linguistica teorica e applicata*, XXI, pp.199-218, Padova)

Serianni,L.: *Grammatica italiana*, 1988,Torino, pp.437-438

(2)和文文献（五十音順）

大塚高信・中島文雄監修『新英語学辞典』1982、研究社

大坪併治『擬声語の研究』1989、明治書院

亀井孝・河野六郎・千野栄一共編『言語学大辞典』第6巻、1995、三省堂

古浦敏生「イタリア語の付加疑問とそれに対応する日本語の文末部―川端康成『古都』とそのイタリア語訳を資料として」(藤原与一編『言語類型論と文末詞』1993、三弥井書店 pp.21-31)

古浦敏生「イタリア語・日本語における色彩語彙の対照研究」、『南欧文化』16 号、1995,pp.16-36

国立国語研究所編『分類語彙表』1987、秀英出版

田中春美ほか編『現代言語学辞典』1988、成美堂

長嶋善郎「語構成の比較」（國廣哲彌編『日英語比較講座』第1巻「音声と形態」1980、大修館）

野村雅昭「否定の接頭語「無・不・未・非」の用法」(『国立国語研究所論集』第4集、1973、pp.31-50)

細川千亜紀「指示詞の日伊対照研究」2001(広島大学文学部言語学専攻卒業論文)

ミリオリーニB.著、岩倉具忠訳『現代イタリア語の話』1970、鹿島出版会

あとがき

日伊対照言語学に関する一書を、とりあえず上梓することができた。この種のテーマは日伊両言語間でまだ数多く存在する。順不同ではあるが、音韻体系の比較・対照を初めとして、親族名称・温度形容詞・料理用語・(数詞や身体部位名を含むもの、など) さまざまな慣用句・格言・「行く」「来る」などの移動動詞表現の比較・対照など、山積の状態である。これらを一つ一つ解明し、日伊両言語間の相違点・類似点を集大成していくことは至難の業であろうが、今後本腰を入れて、この問題に取り組んでいきたいと思う。

本稿第1章作成にあたり、ローマ大学教授 Francesco Sabatini 先生より“イタリア語には壁にのみ用いられる特殊な色彩表現が存在する”という貴重な御助言・御指導をいただいた。ここで厚く御礼申し上げたい。なお、色彩語の資料蒐集・分析に際して、ネイティブ・チェックをお引き受け下さった在ローマの友人 Franco Apruzzese 氏と故 Luigi Alicandri 氏、元広島大学留学生 Matteo Cestari 氏、親切なローマの画材店主 Marcello Falcinelli 氏に深く感謝したい。

なお、平成4年 11 月7日、筆者は、京都産業大学国際言語科学研究所主催の「第4回ロマンス語研究会」において、本稿第1章の内容を「講演」という形で発表した。お世話下さった京都産業大学教授、大城光正先生をはじめとする諸先生にも感謝したい。

本稿第2章脱稿後、広島大学名誉教授、室山敏昭先生より、“日本語の「やろ」には二種類あって、念押しの度合いの強いものと弱いものに分けられる。前者が「no?」に、後者が「vero?」に対応しているのではないか”とのご教示があった。再考の余地があるのかもしれない。ここで厚く御礼申し上げたい。

最後に、筆者の伊文レジュメ作成にご協力くださった 40 年来の友人(il mio vecchio amico) Livio Alessi 氏にも謝意を表したいと思う。

Studi linguistici contrastivi fra il giapponese e l'italiano

Toshio KOURA

In questi ultimi anni gli scambi culturali fra il Giappone e l'Italia hanno registrato un notevole incremento. Negli anni 1995/96 si realizzò la mostra "Giappone in Italia 95/96", che sinteticamente presentava agli italiani la realtà giapponese; e attualmente è in corso di allestimento la mostra "L'Italia in Giappone 2001", che presenta ai giapponesi l'Italia nei suoi molteplici aspetti.

Quindi, nell'ambito dei rapporti amichevoli allacciati fra i due Paesi, si ritiene opportuno illustrare gli studi linguistici contrastivi fra il giapponese e l'italiano.

Ecco, sinteticamente esposti qui sotto, i temi trattati nel presente volumetto.

Prefazione
Capitolo introduttivo : Storia della linguistica contrstiva fra il giapponese e l'italiano
Capitolo primo : Ricerca sui vocaboli cromatici
Capitolo secondo : Ricerca sul "*tag question* (frase interrogativa fittizie)"
Capitolo terzo : Ricerca sulle voci onomatopeiche
Capitolo quarto : Ricerca sui prefissi negativi
Note
Bibliografie
Postfazione

編集委員（広報・図書委員会）

岡橋秀典（委員長）、越智　貢、八尾隆生、佐藤利行、槙林滉二、吉中孝志、古川昌文、奥村晃史

付記　この度、誌名を広島大学文学部紀要から広島大学大学院文学研究科論集に変更したが、巻数は継続する。

広島大学大学院文学研究科論集　第61巻　特輯号 2

平成13年12月24日　印刷
平成13年12月28日　発行
（非売品）

編集者兼発行者　広島大学大学院文学研究科
〒739－8522
東広島市鏡山一丁目2-3

印　刷　者　中本総合印刷㈱
〒732－0802
広島市南区大州五丁目1-1

編集委員（広報・図書委員会）

岡橋秀典（委員長）、越智　貢、八尾隆生、佐藤利行、槙林滉二、吉中孝志、古川昌文、奥村晃史

付記　この度、誌名を広島大学文学部紀要から広島大学大学院文学研究科論集に変更したが、巻数は継続する。

広島大学大学院文学研究科論集　第61巻　特輯号 2

平成13年12月24日　印刷
平成13年12月28日　発行
（非売品）

編集者兼発行者　広島大学大学院文学研究科
〒739－8522
東広島市鏡山一丁目2-3

印　刷　者　中本総合印刷㈱
〒732－0802
広島市南区大州五丁目1-1